

中部大学民族資料博物館

年報 10号

2020/2021

ANNUAL REPORT Volume 10

2020/2021

Museum of Ethnology Art

Chubu University

年 報

10号

ANNUAL REPORT

Volume 10

令和 2 年/ 3 年

2020/2021

中部大学民族資料博物館

Museum of Ethnology Art

Chubu University

Annual Report of Museum of Ethnology Art
Vol. 10, 2020/2021

Edited and published by
Museum of Ethnology Art, Chubu University
Matsumoto-cho 1200, 487-8501 Kasugai-shi,
Aichi, Japan

Printed by
Fuji Printing Industry Co.,Ltd

©2020/2021
Chubu University

目次

巻頭言 荒屋鋪透	5
----------	---

1. 博物館活動報告

展示 (常設展・企画展)	8
講演	20
講座	22
実績	
1. 開館日数・入場者数	26
2. 団体見学	29
3. 出版	30
活動報告 2020年度、および2021年度の博物館活動について ——感染症対策期間の試みとしての映像制作 原田千夏子	31
4. 広報	41
5. 資料収集・保存	43
6. 教育・普及	45
7. 調査・研究業績	47
8. 出張業務	49
9. 会議	50

2. 組織・施設

組織	
1. 職員	52
2. 運営委員	52
3. 外部専門委員	53
4. 諸規程・要綱	54
5. 関係法規	60
施設	64

3. 論文・研究調査

作品の過去＝(来歴 (プロヴィナンス))は、未来を問う ——現代における展覧会／アーカイヴのいま 前田富士男	66
--	----

Contents

Preface

Toru ARAYASHIKI	5
-----------------------	---

1. Report: Events

Exhibitions: Collections / Special Exhibition	8
Lectures	20
Courses	22

Performance

1. Opening days / Visitor statistics	26
2. Group tours	29
3. Publication	30
Research report	
Chikako HARADA, About museum activities in 2020 and 2021	
~ Video production as an attempt to prevent infectious disease	31
4. Public Relation	41
5. Material collection / Preservation	43
6. Educational promotion activity	45
7. Research activity	47
8. Business trip	49
9. Meeting	50

2. Organization and Management / Facility

Organization and Management

1. Museum staff	52
2. Steering committee	52
3. External expert adviser	53
4. Regulations	54
5. National Laws	60
Facility	64

3. Article and Research Report

article

Fujio MAEDA, “Provenance research” designates the artistic activities in future culture, Archive as important option for information society	66
--	----

巻頭言

荒屋鋪 透

2020年3月に編集し5月に発行した前号の年報、中部大学民族資料博物館の年報9号(2019年度の活動記録)につづき、この年報10号は2020年度から2021年度の2年間にわたる活動記録の冊子となった。

そのおおきな理由は、この2年間とくに猛威をふるった新型コロナウイルス感染症対策のため、民族資料博物館は臨時休館を余儀なくされたことなど、活動の制限にあった。実際、2020年度の開館日数は98日、入館者の合計は782人であり、翌年2021年度の開館日数は184日、入館者1,825人という数字だけみてもその制限の実態がわかる。ちなみに2019年度の開館日数は186日、入館者は常設・企画展の来館者と企画展関連の講演会、また通年の実技講座である特別講座の参加者をくわえて総計5,207名であった。

具体的な臨時閉館は2020年度では4月、5月、6月が完全閉館、入館者0人、7月以降も多い月で19日、少ない月で1日という開館状況であり8月、10月、11月、12月の高校による大学見学の来館者が入館者のかなりの部分を占めている。2021年度は長期休暇以外の臨時休館が5月、8月、10月、12月、2月と3月にあった。それでも2021年度には高校による大学見学、学園関係者見学、夏と秋のオープンキャンパス、父母との集いにくわえて、特別講座の受講生など全入館者の数が多少、もどった観がある。

こうした活動制限は、民族資料博物館の重要な活動である企画展覧会と特別講座〈古典絵画〉にも波及している。

たとえば企画展『先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～』(会場：中部大学民族資料博物館シルクロード室他、主催：中部大学民族資料博物館、協力：中部大学平左エ門カメラ同好会)は、会期を2020年度と2021年度の2年度にまたぐ長期開催とした(会期：2021年3月22日[月]～2021年9月30日[木])。しかしこの期間の入館は学園関係者(学内)に限り、一般公開日は事前予約制で9月1日、2日、8日、9日、15日、16日の6日間で実施した。

さらに2021年6月1日(火)「写真の日」に予定していた「関連シンポジウム」は、やむなく中止して会期終了後の2021年10月8日(金)、関係者の参加に限定して「関連座談会」を、まだ展示資料を撤収する前の民族資料博物館シルクロード室で実施、その記録はこの冊子とは別の活動記録『中部大学民族資料博物館 講演記録 2020/2021』(2022年9月1日発行)にまとめることができた。また当日の映像記録を残すこともできた。中部大学平左エ門カメラ同好会と同会世話人の内藤和彦・中部大学名誉教授、また映像記録を担当した中部大学学園広報部制作課の野寄誠・担当課長に感謝申し上げたい。

特別講座〈古典絵画〉はまず前年度の「2019年度 受講生作品展—金屏風の小下図制作と作品」を当初、2020年3月から4月に予定していたが延期、同年秋にWEB展覧会として2020年11月30日(月)～2021年3月11日(木)に実施(中部大学ホームページにある民族資料博物館の企画展に合わせて制作した作品掲載ページに画像を掲載、同ページはWEB展覧会開催期間に大学トップページの催事案内からもリンク設定し、ウェブ上にて学外公開をした)、さらに民族資料博物館シルクロード室で、2021年3月22日(月)～9月30日(木)まで開催した(会期終了後の2021年10月6日、関係者限定で講習会を実施)。また上記会期の9月1日、2日、8日、9日、15日、16日の6日間を設定して、事前予約制による一般公開日を設けることができた。

また2020年度の特別講座〈古典絵画〉の春学期は休講、秋学期は通信制で講師の下川辰彦先生（画家・日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員）が添削指導する方法で開講した。開始が半期ずれたことから、翌年2021年度の上半期までを同じ課題（「四季を描く～金箋紙・銀箋紙」）を継続、この期間の「受講生作品展」は、2022年3月から9月末までとなった。同作品展の記録は年報の次号で紹介する予定である。

新型コロナウイルス感染症対策のためとはいえ、この期間、受講生の方々にご心配をおかけしたことをお詫びいたし、講師の下川辰彦先生のご尽力に感謝いたしたい。

さてこうした様々な活動制限のなかで、民族資料博物館はその活動を停止していたわけではない。むしろいくつかの新規事業に取り組んだ。その大きな分野がこの年報10号の35頁から40頁に掲載された「常設展示記録映像（2020年度再編後）」の制作である。民族資料博物館の常設展示を新たに作る作業は懸案事項であったが、この期間に実現することが可能になった。さらに中部大学の学生と教職員がオンラインによる民族資料博物館の学術資料を活用するためには、そのコレクションと展示状況を映像記録として残しておく必要がある。こうした新たな取り組みに対しては学園内外の関係者、また民族資料博物館運営委員会と外部専門委員会の協力が大きかった。最後になるが学園内外の関係者の方々、また民族資料博物館運営委員と外部専門委員の各位に感謝いたし、様々なことのあった2020年度/2021年度の年報10号の巻頭言としたい。

あらやしき・とおる（中部大学民族資料博物館長、中部大学人文学部教授）



SDGsフォーラム見学対応 2021年2月11日
（中央・荒屋鋪館長）



新設した常設展示のコンセプト表示パネル

博物館活動報告



附属三浦記念図書館1階 民族資料博物館 入館案内

常設展

会場： 民族資料博物館 展示室
期間： 2020年4月1日(水)～2021年3月31日(水)
[7月より学園関係者限定]
2021年4月1日(木)～2022年3月31日(木)
[学園関係者限定]
内容： 当館所蔵資料より重要資料を展示。
新コンセプトテーマに則して展示資料を再選出し
展示位置を再編。関連の解説情報を補充し新規
パネル化し増設した。
出品： 750点
入館： 2,607人
(2020年度 782人、2021年度 1,825人)

常設展示リニューアル — コンセプト再考と視覚教材資料の新たな制作と活用

期間： 2020年4月～9月
場所： 常設展示室（シルクロード室、地域研究エリア）、
体験実習室

2020年2月に新型コロナウイルス感染症の発生にともない、緊急事態宣言が発出され、予定していた企画展の開催を延期することとなり、館内では、活動計画の見直しが余儀なくされた。そこで、翌年に開館十年目の節目を迎える時期となる点もふまえ、これを機に、これまでの活動を振り返り、来館者から寄せられた声を参考に、常設展示空間の改善対策を行うこととした。特に、様々な形状や素材の資料を所蔵する当館の収蔵資料の特徴を活かした学習テーマを、より具体的にイメージできる展示コンセプトを明確なキーワードで打ち出すことを重視した。

■常設展示のコンセプトの具体化、および展示資料の選別の見直しと解説パネルの補充

新コンセプト

「陸と海の交流史とともに眺める世界」
「世界史」に登場する交易ネットワーク関係と民族資料

第一室（シルクロード室）：

民族衣装や関連の装飾品を追加。関連の絵画作品とともに、人間の暮らす姿を連想しやすい資料を選別。

第二室（地域研究エリア）：

民族の特徴がわかりやすい、仮面、楽器、衣装をメインに選別し直し、地域相互に素材や様式の発展に交流の歴史的背景があるものを中心に解説情報を補充。収蔵点数約4,000点のうち、展示資料を約750点に選定。



再編後の常設展示室（第1室 シルクロード室）

来館者の鑑賞の導線を再考し、コーナー配置や展示室全体のゾーニングを再検討したうえで、コンセプトに添う必要な個別の解説情報を補充。資料の展示用の名称についても、来館者がわかりやすい表記を再検討し、さらに館のロゴ入りのキャプションカードを活用するなど視覚的な統一をはかることで、配置する展示室空間において、統一したメッセージ性を作ることに意識を向けた。特に第二室のゾーニングは、地域間の区分をゆるやかに移行させるため、壁面に貼る布の色を変え、大枠で地域分類を示唆するにとどめた。

資料の選別の経過では、資料の保存状態をチェックす

るよい機会ともなり、一部の弦楽器を補修し、常設展示でご紹介することにした。あわせて特有の天然材を用いた資料を強調するため、ポップデザインスタンドを新たに追加設置するなど、鑑賞の導線を整理するとともに視覚的なアクセントを加える工夫を取り入れた。施設関連では、スポットライトの増設、耐震対応箇所を再点検し、彫刻、家具類、楽器等について転倒防止のためのテグス箇所を増設した。

■地図デザインパネルの作成

展示コーナーごとに常にコンセプトを意識し、展示資料の成立背景を連想し鑑賞できるようにするために、世界史に登場する交流図を参考に、地図デザインパネルを新規作成した。「世界史」関係各社の許可申請済。次はその地図パネルのテーマである。

〈地図パネルデザイン名称〉

シルクロード室：陸と海のネットワーク／仏教の伝播

地域研究エリア：

オセアニア地域：パプアニューギニア／オセアニア〜ブカルア環礁
の人びとの生活

アフリカ地域： 1900年頃のアフリカ大陸／アフリカ大陸（現代）

ヨーロッパ地域：モンゴル帝国のヨーロッパ進出／オランダ連合東インド会社航路図

帝国主義／19世紀以降の移民の流れ

アジア地域：ムスリム商人の主な貿易路と主要取引品／東南アジアへのイスラーム伝播／茶馬古道

アメリカ地域：アメリカ古代文明／16世紀の世界の貿易〜銀がつなぐ世界史

■体験実習室の再編

リニューアルに際し、感染症対策のため、以前の民族衣装試着や民族楽器の体験コーナーを利用停止とし、代わりに常設展示室内の一角にある書籍閲覧のスペースにある備え付けの展示ケースの利用についても見直した。これまでの来館者の声には、世界の地域文化の展示資料を前に、日本との比較について質問を受ける機会が少なくなかった。そこで、「日本文化」に関連した作品資料を体験実習室で紹介をすることとした。

〔主な展示資料〕

本学と愛知県立芸術大学との共同研究成果作品他

《模写 源氏物語絵巻 「柏木三」》

《模写 扇面古写経絵図》

《模写 平治物語絵巻 六波羅行幸巻》

当館の2015年企画展制作資料「日本画の顔料の重ね塗り表現の再現パネル（10点中5点）」

〔その他〕

収蔵資料テーマ別紹介コーナー（2022年度現在は「帽子」を紹介）

この部屋では、図書コーナーで館の発行図録や関連研究者の書籍が閲覧できる他、大型モニターには、国立情報学研究所の作成したデータベースを許可を得て放映し、シルクロード関連の画像資料や地図資料を閲覧できるようにしている。2022年5月以降は、2021年度に開発した公開系データベースを閲覧できる環境整備も予定している。

リニューアル後の展示室の様子は、学園広報部の協力のもと映像に撮影し、DVD記録を交流大学の一つである天理大学参考館の中尾学芸員に見ていただき、貴重な参考意見をいただいた。今後も学术交流に発展させながらよりよい博物館活動をすすめていくよう努力を続けた。館では、2021年度は、この活動成果をもとに、デザインを一新した館リーフレットの改訂版、館ホームページ改訂版を作成した。

今回の常設展示室リニューアルでは、展示空間全体の統一性を常に意識しつつ、個々の展示資料の特徴を再確認するという機会となった。しかし、学術・教育資料としての活用を念頭にした収蔵資料の取り扱いには課題がなお多い。さらに館内で検討を重ね、少しでもよりよい環境作りを工夫していきたい。（原田）



再編後の常設展示室（第2室 地域研究エリア）

2021年度 館ホームページデザイン改訂（一部抜粋）

https://www3.chubu.ac.jp/museum/



1



2



3



4



5



6

1. 中部大学民族資料博物館 2021年度 館ホームページデザイン改訂後のトップページ
メイン画像に新コンセプトを反映したデザインを新規採用 右パナーに「館内リニューアル」「ピックアップ情報」を最新情報の配信欄として新規設定
2. 「利用案内」ページ
館内施設の基本情報を整理
3. 「概要」ページ（「目的／テーマ」）ページ
館の活動方針と学習テーマに、収蔵資料の特徴を生かした展示コンセプトを新規設定
4. 「展示紹介」ページ
2020年度の展示ゾーニングの変更後の平面図をさしかえ
5. 「常設展示」地域研究エリア（第2室）ページ
2020年度の展示ゾーニングの変更後にアジア地域を1つに集約したことで、第2室の主要な展示ゾーニングを全5種で紹介
6. 「常設展示」地域研究エリア（アジア）ページ
展示コーナーや展示資料の画像に加え、2021年度に新規作成した地図デザインパネルを一部紹介

特別講座＜古典絵画＞

2019年度 受講生作品展

— 金屏風の小下図制作と作品

- 会場： 民族資料博物館 多目的室+附属三浦記念図書館1階エントランスホール
- 期間： WEB展覧会 2020年11月30日(月)
～2021年3月11日(木)
企画展 2021年3月22日(月)
～9月30日(木) [学園関係者限定]
(うち、一般公開日を事前予約制で6日間設定：
2021年9月1日、2日、8日、9日、15日、16日)
(会期終了後に関係者限定で講評会を実施：2021年10月6日)
- 内容： 当館企画の日本画実技制作講座を受講した一般参加者の成果発表として2019年度に制作した作品を展示。課題制作「小下図用の金屏風(四曲一雙)」の他、各自自由制作作品を合わせて発表。
- 出品： 2019年度特別講座受講生作品 計32点(指導講師による賛助出品を含む)
- 賛助出品： 下川 辰彦 画家・日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員 2点一式
- 担当： 下川 辰彦・原田 千夏子
- 入館： 887人



展示会場

特別講座(古典絵画)2019年度受講生作品展では、課題制作となる「金屏風の小下図制作」として、一雙(2点一組)の金屏風作品を13点と、自由課題制作、および指導講師の賛助出品を含め計32点を展示した。課題制作においては、小型ながら四曲の屏風仕立ての金地画面に日本画の絵具で彩色をほどこすという点では、非常に難度の高い描写に挑戦したものである。一雙という、2点を対で使用する屏風を想定し、2点の関係性を考える構図を作る構成力も工夫するほどに面白い作品となる。受講生らのモチーフは、聖獣、果実、有職故実、古典的な文様、洋花、旅情ある外国風景など、伝統的な図案を自身の感覚で捉え直して作品に仕上げるよう自由に試み、各自が自身の感覚を通して創作世界を楽しんでいる趣を全体的に感じられた。会期の終盤に行われた講評会における指導講師からも、各自の作品の着想からそのテーマを活かす表現を工夫する姿勢ができつつあると触れられた。一点一点の特徴に合わせた構成や彩色のより深い指針も提示いただき、講評会参加者は次の制作への意欲を一層高めることとなった。

屏風絵は日本家屋の室内装飾として、年中行事の祭礼に応じて相応しい花鳥風月のテーマを選び入れ替える。収納には折り畳み、飾りつけには角度をつけて自立させる形状になっており、陳列時の見え方を想定して画面構成がとられる。本講座の制作では、実際に制作を行うことで、屏風の表装の構造的な特徴を具体的に理解する機会となり、今後、美術博物館で同様の作品を目にした際により深い鑑賞に通じていくことだろう。

2020年3月から4月に予定していた作品展は、コロナ禍において延期とし、同年の秋から年度末にかけて、館ホームページに展示作品の画像を掲載(および大学ホームページの催事案内)し、館では初のWEB展覧会として、館のホームページへ企画展に合わせて制作した記録集の作品掲載ページ画像を掲載した。また同ページはWEB展覧会開催期間に大学トップページの催事案内からもリンク設定し、ウェブ上にて学外公開をした。

さらに、実際の作品の展示を、当初予定のほぼ一年遅れとなる2021年3月から開催した。

しかし、大学における感染症対策はひきつづき行われることから、館内への入場は学園関係者限定とし、感染症の収束を待つこととした。会期を9月末までの半年の期間に長く設定した点も、できるだけ一般へ公開できる時期を設けたいとするためであった。期間中に、公開再開時期について問い合わせを多数いただいたことから、一般希望者には、大学が夏休み期間である9月の3週間のみ、事前予約制で少人数グループに分かれての受入れを行った。

(原田)

特別講座＜古典絵画＞2019年度 受講生作品展案内リーフレット（表面）

（会期変更後の再版）

中部大学

民族資料博物館

特別講座
[古典絵画]
2019年度 受講生作品展
— 金屏風の小さな制作 —

2021.3.22[月]—9.30[木]
中部大学民族資料博物館 多目的室他
※9月29日(水)14:00に指導講師による講評会
新型コロナウイルスの拡大を注視しながら開催方法を検討いたします。最新情報はHPにてご確認ください。

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY AND CULTURE, CHUBU UNIVERSITY
[開館時間] 9:30～16:30(入場は開館の30分前) [休館日] 土曜・日曜・祝日・年末年始・大学予定の休日(行事開催中は開館予定) [入場料] 無料
〒487-8501 愛知県春日井市北本町1200 TEL.0568-51-9193 FAX.0568-51-9194 E-mail: minzoku@office.chubu.ac.jp HTTP://www3.chubu.ac.jp/museum

特別講座＜古典絵画＞2019年度 受講生作品展案内リーフレット（裏面）

（会期変更後の再版）

特別講座 [古典絵画]
2019年度 受講生作品展
— 金屏風の小さな制作 —

入場無料

民族資料博物館 多目的室他 2021年3月22日(月)～9月30日(木)
※9月29日(水)14:00より、指導講師による作品講評会

中部大学民族資料博物館では、日本画の実技制作を通じて古典絵画の技法を学びながら、その表現を現代作品の制作に活かす方法を考えていくことを学習目標とする。特別講座(古典絵画)を継続して企画することで、地域の皆様へ生涯学習の場を提案しています。

2019年度は、江戸時代の町人文化のなかで花開いた、琳派の絵師たちによる屏風絵を参考に、二隻の金屏風を一对で並べる作品制作を課題テーマとして一年間取り組んできました。金地に彩色するという難度の高い技法を駆使し、花鳥や伝統文様をはじめ、有職故実の世界や異国情緒ある街並みなど、多彩なモチーフに挑戦し、見事に美しい描写によって完成しています。今年度の活動成果を展示会場にて報告いたします。

JR神領駅下車 名鉄IC1中部大学駅10分

愛知県春日井市北本町1200 TEL.0568-51-9193 FAX.0568-51-9194 E-mail: minzoku@office.chubu.ac.jp HTTP://www3.chubu.ac.jp/museum 開館時間 平日9:30～16:30(入場は開館30分前まで) ※公共交通機関をご利用の二重力をお願いします

特別講座＜古典絵画＞2019年度 受講生作品展 出展作品リスト

中部大学民族資料博物館

2019年度 特別講座（古典絵画）受講生作品展 作品一覧

— 金屏風の小下図制作と作品 —

会期：2021年3月22日（月）～9月30日（木） 中部大学民族資料博物館 多目的室
（賛助出品作品：1階エントランス展示）

No.	制作者氏名	題 目	
1	稲垣 敏子	馨	（紙本）四曲一双
2	稲垣 敏子	吉野山	（紙本）
3	加藤 あずさ	やすらぎの鳥たち / 若冲梅花群鶴図の模写	（紙本）四曲一双
4	加藤 あずさ	若冲梅花群鶴図の模写	（紙本）
5	加藤 あずさ	花ざかりの嵐山電車	（紙本）
6	川口 晃司	早春	（紙本）四曲一双
7	川口 晃司	滝	（紙本）
8	小島 亜弥子	孔雀鳳凰図 / 孔雀麒麟図	（紙本）四曲一双
9	小島 亜弥子	静光	（紙本）
10	笹尾 純子	双龍	（紙本）四曲一双
11	笹尾 純子	海辺の坂道	（紙本）
12	園部 五十子	春 / 秋	（紙本）四曲一双
13	園部 五十子	牡丹（ぼたん）1	（紙本）
14	園部 五十子	牡丹（ぼたん）2	（紙本）
15	園部 五十子	牡丹（ぼたん）3	（紙本）
16	田中 佐保子	春穂 / 秋穂	（紙本）四曲一双
17	田中 佐保子	ねむり姫Ⅱ	（紙本）
18	早川 博美	四季の香	（紙本）四曲一双
19	早川 博美	食す	（紙本）
20	原田 由己	春炎	（紙本）四曲一双
21	原田 由己	アルバラシン	（紙本）
22	牧 節子	葵祭・王朝の四季	（紙本）四曲一双
23	牧 節子	日光富士	（紙本）
24	牧 節子	月光富士	（紙本）
25	松原 久代	流	（紙本）四曲一双
26	松原 久代	大内宿（夜）	（紙本）
27	松原 久代	大内宿（朝）	（紙本）
28	三田 眞幸	青龍 / 白虎	（紙本）四曲一双
29	宮澤 好子	ベネチアの時	（紙本）四曲一双
30	宮澤 好子	菖蒲	（紙本）

※50音順

賛助出品 中部大学附属三浦記念図書館 1階エントランス

講師	下川 辰彦	浄（じょう） / 艶（せい）	（紙本）変形S40号・2点
----	-------	----------------	---------------

2020年度／2021年度企画展

「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門 のカメラコレクション展～」

- 会場： 民族資料博物館 シルクロード室+附属三浦記念図書館1階エントランスホール
- 期間： 2021年3月22日(月)～9月30日(木) [学園関係者限定]
(うち、一般公開日を事前予約制で6日間設定：9月1日、2日、8日、9日、15日、16日)
(会期終了後に関連座談会 [関係者限定] を実施：2021年10月8日。内容は、民族資料博物館『講演記録2020/2021』参照)
- 内容： 2018年度より民族資料博物館の管理となったクラシックカメラコレクションを紹介する企画展。もとの収集者である伊藤平左エ門名誉教授の本学における建築教育活動の一部を関連資料や映像とともにあわせて紹介。コレクションのカメラ機器の整理作業を行ってきた学内有志の同好会による各種機器の取り扱い映像記録を作成し会期中に放映した。
- 出品： 関連資料を含め84点、うちカメラ機器52点
- 主催： 中部大学民族資料博物館
- 協力： 中部大学平左エ門カメラ同好会
- 入館： 887人 (うち一般公開日の入館 一般55人)

本展示会の会期・来館者等は上記のとおりである。

なお、6月1日(日本人が初めて写真撮影した日とされるカメラの日)に予定していた講演会はコロナ蔓延のため中止された。

2008年より「中部大学平左エ門カメラ同好会」が行ってきた企画展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展」は2014年の第5回展示で一区切りを迎えている。展示会ごとに資料整理した結果をまとめて目録(冊子製本)を作成するという当初の目的が達成されたためである。目録は2016年に上梓され、その後、2019年の第8回展示までは本同好会が主体的に企画・開催してきた。2018年、コレクションカメラの保管を民族資料博物館に移すことが決まり、これを機として中部大学民族資料博物館主催になる本展示会が企画されることになった。従って、作業は博物館主導で進められたが、この展示会が我が同好会にとっては第9回目の総括的意味を持つ展示会に位置づけられたことから、全面的に協力させていただくことになった。

展示内容については、本展示会にあたって博物館と私共との共同で製作したパンフレット(図録)に詳しく掲載されているので、ご参照いただきたい。

2年越しのコロナ蔓延の影響で一般公開日はわずか6日間、残りの99日は大学関係者のみの公開であったが、予想以上の来館者数と高い評価を得たとのことである。また、来館した学生の意見をきっかけにYouTubeへの展示室風景の動画配信が実現している。学園広報部の協力を得てのコロナ禍ならではの初の試みだったという。

コロナ禍の展示会としては上出来だったと言ってよいだろう。荒屋鋪館長をはじめとする博物館スタッフの方々の尽力に感謝したい。同時に、あらためて伊藤先生のコレクションカメラの質の高さを証明できたようにも思う。しかし、博物館に移管された「先生が(我々も)愛したカメラたち」の行く末(メンテナンス等)については一抹の不安は残る。今後の博物館の対応に期待しつつ、もう少し見守っていきたいと思っている。(内藤)



展示会場



 中部大学

先生が愛した カメラたち

～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～

2021.3.22(月)～2021.9.30(木)

場所/中部大学民族資料博物館 シルクロード室他
主催/中部大学民族資料博物館 協力/中部大学 平左エ門カメラ同好会

関連シンポジウム

日時/2021年6月1日(火)14:00より16:00まで 場所/中部大学リサーチセンター 2階 大会議室

<p>1 基調講演 >> 「カメラの発達と写真文化」 講師: 上原 一郎 氏(写研春日井写真クラブ会長) 司会: 荒屋鋪 透(中部大学民族資料博物館長・人文学部教授)</p>	<p>2 座談会 >> 「平左エ門先生の建築教育への思い～復原研究参加の思い出」 伊藤平左エ門研究室ゆかりの中部大学卒業生 司会: 内藤 和彦(中部大学名誉教授・平左エ門カメラ同好会)</p>
---	--

※新型コロナウイルス感染症の拡大を注視しながら開催方法を検討いたします。最新情報はHPにてご確認ください。

中部大学民族資料博物館 [開館時間]9:30～16:30(入場は開館の30分前) [入場料]無料
MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY [休館日]土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日(行事開催日は開館予定)
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200 TEL.0568-51-9193 FAX.0568-51-9194 E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp https://www3.chubu.ac.jp/museum/

COLLECTION
Line up

企画展 **先生が愛したカメラたち**
～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～

1



2



3



4



5



6



7



1 Rolleiflex Standard(ドイツ)

5 Linhof Technika 23(ドイツ)

2 Leica M4(ドイツ)

6 Contaflex(ドイツ)

3 Leica A(D)(ドイツ)

7 MINOX B(ドイツ)

4 平左エ門自作カメラ(日本)

PROFILE



伊藤平左エ門(1922-2004)

尾張藩の御用宮大工の家系に生まれ、昭和21年に東京帝国大学を卒業後、同大学院にて日本伝統建築の研究に着手。昭和55年に第12代伊藤平左エ門を襲名。中部大学には昭和41年に助教授、昭和48年に教授として就任し、建築学科にて建築史・意匠分野を担当。登呂遺跡の復原をはじめ、出雲大社拝殿、水戸弘道館、高松栗林公園内「朧月亭」など多数の文化財・古建築の復原・修復などを手がけ、その数は250余件に及ぶ。本割書「匠明」の解説研究他の業績により「日本建築学会賞」を受賞している。

伊藤平左エ門家の系譜と中部大学における研究

生家である伊藤家は、代々平左エ門を襲名する堂宮大工の家系で、初代から10代までは尾張藩御大工を務めたとされる。初代伊藤平左エ門 宗知は「美濃明細紀」より織田信秀の家臣であったともいわれ、慶長年間に清須から名古屋に移り、名古屋城築城に従事したと伝えられる。伊藤家は幕末から明治にかけ、尾張地域だけではなく、業績の場を全国に広めた。それまでの尾張藩作事方の伝統技術をさらに高め、明治の技術革新を取り入れて、作品は洋風建築にも及んだ。建築技法から、構造法にも精通し、木曾檜などの木材集積地である名古屋を背景に、近代の名門宮大工としての業績を確立していく。第12代伊藤平左エ門は建築史・意匠分野の研究のなかで利休園復原研究の茶室「工法庵」他、「洞雲亭」(古建築の移築修復研究)、「欄柯軒」を、建築教育として教職員、卒業研究生らとともに中部大学に建てる。



利休園復原建築研究「工法庵」(中部大学)

中部大学民族資料博物館

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地(附属三浦記念図書館2階)

TEL 0568-51-1111(代表) 0568-51-9193(直通) FAX 0568-51-9194

ホームページ <https://www.3.chubu.ac.jp/museum/> E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp

ACCESS

交通のご案内
JR中央本線「神領」駅下車、
名鉄バス「中部大学前」
(約10分)下車すぐ



中部大学
平左エ門カメラ同好会

伊藤平左エ門先生が愛用されていたカメラ機器120点余りは、2006年、大学へ遺贈された。貴重なオールドカメラの数々は、その後有志により発足した同好会において、部品の手入れ等、継続したメンテナンス作業を含む活動を通じ守られてきたことで、大学コレクションとしての今日の紹介へつながった。

また、同好会は保存整理の段階に応じて、これまで企画展示を2008年より8回にわたり行い学内外に配信してきた。本展では、その活動の足跡についても振り返りながら、カメラ機器を通じて平左エ門先生の「モノ作り」への精神に触れた人びとの交流の一端に触れる。

2020年度/2021年度 企画展 出展作品リスト

2020年度/2021年度 中部大学民族資料博物館企画展

「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」

会期：2021年3月22日（月曜日）～9月30日（木曜日）

場所：中部大学民族資料博物館 シルクロード室他

主催：中部大学民族資料博物館

協力：中部大学 平左エ門カメラ同好会

1. カメラ機器

※印：図録に写真掲載有

	名称・型番	メーカー	国名	製造期間	製造年 (推定)	装着レンズ規格	寸法 (W×D×Hmm)	所蔵	図録掲載 No.
I	伊藤平左エ門 自作カメラ一式 (付属レンズ 2本)	製作： 伊藤平左エ門	日本	不明	不明	Tessar 150mm/F4.5	150×135×121	中部大学 ※	I
	Leica M4 No.1251408	Ernst Leitz	ドイツ	1967～1975	1970	Summaron 35mm/F2.8	140×71×84	中部大学 ※	II-01
	Leica A(I) No.4449	Ernst Leitz	ドイツ	1925～1936	1926～1927	Elmar 50mm/F3.5	134×45 (沈胴時) ×70	中部大学 ※	II-02
	Leica スタンダード No.196738	Ernst Leitz	ドイツ	1932～1950	1936	Elmar 50mm/F3.5	133×47 (沈胴時) ×69	中部大学 ※	II-03
	Leica D II (II) No.188650	Ernst Leitz	ドイツ	1932～1948	1932	Elmar 50mm/F3.5	132×45 (沈胴時) ×69	中部大学 ※	II-04
	Leica D III a(IIIa) No.171141	Ernst Leitz	ドイツ	1935～1950	1935	Elmar 35mm/F3.5	134×50×77	中部大学 ※	II-05
	Leica D III a(IIIa) No.238368	Ernst Leitz	ドイツ	1935～1950	1937	Elmar 50mm/F3.5	133×45 (沈胴時) ×71	中部大学 ※	II-06
II	Leica III f No.635438 (赤ダイヤル/セルフなし)	Ernst Leitz	ドイツ	1950～1957	1952～1953	Summitar 50mm/F2.8	135×62 (沈胴時) ×73	中部大学 ※	II-07
	Leica III f No.813938 (赤ダイヤル/セルフ付)	Ernst Leitz	ドイツ	1950～1957	1956	Xenon 50mm/F1.5	135×80×71	中部大学	
	Leica III g No.847995	Ernst Leitz	ドイツ	1957～1960	1957	Summaron 35mm/F3.5	136×57×76	中部大学 ※	II-08
	Leica M3 No.703002	Ernst Leitz	ドイツ	1954～1966	1954	Summarit 50mm/F1.5	138×93×79	中部大学 ※	II-09
	Leica CL No.1320304	Ernst Leitz	ドイツ	1973～	1973～1974	Summicron 40mm/F2.0	120×67×80	中部大学 ※	II-10
	Leica M4-P No.1605692	Ernst Leitz	ドイツ	1981～1987	1982～1983	Summilux 35mm/F1.4	141×70×80	中部大学 ※	II-11
	Leica III No.124584	Ernst Leitz	ドイツ	1933～1939	不明	Canon Lens F35 F3.2(W/M-adaputer)	133×43×67	個人 (大学内管理)	
	Rolleiflex Standard No.482549	Franke und Heidecke	ドイツ	1932～1938	1938	Compur付 Tessar 75mm/F3.5	88×95×138	中部大学 ※	III-01
	Rolleiflex 4×4 3rd/4th No.133815	Franke und Heidecke	ドイツ	1931～1938, 1957～1963	1938	Compur付 Tessar 60mm/F3.5	73×76×109	中部大学 ※	III-02
	Rolleiflex AutomatIV No.1267845	Franke und Heidecke	ドイツ	1937～1949	1945～1949	Compur付 Tessar 75mm/F3.5	88×102×143	中部大学 ※	III-03
	Rolleiflex 3.5F (後期モデル) No.2806255	Franke und Heidecke	ドイツ	1958～1976	後期モデル	Carl Zeiss Planar 75mm	105×103×144	中部大学 ※	III-04
	Rolleiflex T (プレー初期モデル) No.2155995	Franke und Heidecke	ドイツ	1958～1976	初期モデル	Carl Zeiss Tessar 75mm/F3.5	107×101×145	中部大学 ※	III-05
	Rolleicord I No.024215	Franke und Heidecke	ドイツ	1933～1936	1936	Compur付 Triotar 75mm/F4.5	90×98×133	中部大学 ※	III-06
	Rolleicord I a No.不明	Franke und Heidecke	ドイツ	1937～1938	1937	Compur付 Triotar 75mm/F4.5	92×96×139	中部大学 ※	III-07
III	Rolleicord II a Type1 No.不明	Franke und Heidecke	ドイツ	1936～1950	1936	Compur付 Triotar 75mm/F3.5	92×95×136	中部大学 ※	III-08
	Rolleicord II b No.638239	Franke und Heidecke	ドイツ	1936～1950	1937	Compur付 Triotar 75mm/F3.5	95×98×137	中部大学 ※	III-09
	Rolleicord IV No.1354709	Franke und Heidecke	ドイツ	1953～1954	1953	Compur付 Xenar/F3.5	96×96×138	中部大学 ※	III-10
	Rolleicord Vb (後期モデル) No.2655892	Franke und Heidecke	ドイツ	1962～1977	後期モデル	Synchro Compur付 Xenar 75mm/F3.5	99×98×143	中部大学 ※	III-11
	Rollei 16S No.2736666	Franke und Heidecke	ドイツ	1963～不明	1963	Tessar 25mm/F2.8	109×46×33	中部大学 ※	III-12
	Rollei 35 (白) No.3012566	Franke und Heidecke	ドイツ	1966～不明	1966	Tessar 40mm/F3.5	97×43 (沈胴時) ×67	中部大学 ※	III-13
	Rollei A110 No.3124056	Franke und Heidecke	ドイツ	1972～不明	1975	Tessar 23mm/F2.8	100×32×44	中部大学	
	Rollei 35 (白) No.3029591	Franke und Heidecke	ドイツ	1966～不明	1966	Tessar 40mm/F3.5	97×45 (沈胴時) ×67	中部大学	

	名称・型番	メーカー	国名	製造期間	製造年 (推定)	装着レンズ規格	寸法 (W×D×Hmm)	所蔵	図録掲載 No.
III	Rollei 35B (黒) No.4680701	Franke und Heidecke	ドイツ	1969～不明	1969	Triotar 40mm/F3.5	95×42 (沈胴時) ×68	中部大学	
	Rolleicord I a Type3	Franke und Heidecke	ドイツ	不明	不明	Carl Zeiss Jana Triotar f75 F3.5	90×97×133	個人 (大学内管理)	
IV	MINOX-III No.59188	MINOX	ドイツ	1951	1951	COMPLAN 15mm/F3.5	82×28×16	中部大学 ※	IV-02
	MINOX-C (初期製造品) No.2317126	MINOX	ドイツ	1969～1978	1969	COMPLAN 15mm/F3.5	119×28×16	中部大学 ※	IV-03
	MINOX-BL No.1214708	MINOX	ドイツ	1972	1972	MINOX 15mm/F3.5	99×28×16	中部大学 ※	IV-04
	MINOX 35EL No.3623732	MINOX	ドイツ	1974～	1974	Color-Minotar 35mm/F2.8	100×32×60	中部大学 ※	IV-05
	MINOX-III s No.680772	MINOX	ドイツ	1954～1969	1954	COMPLAN 15mm/F3.5	82×28×16	中部大学	
	MINOX-B No.859871	MINOX	ドイツ	1958～1972	1958	COMPLAN 15mm/F3.5	97×28×16	中部大学	
	MINOX-B No.930384	MINOX	ドイツ	1958～1972	1958	COMPLAN 15mm/F3.5	97×28×16	中部大学	
	MINOX-LX No.2519482	MINOX	ドイツ	1978～	1978	MINOX 15mm/F3.5	108×28×16	中部大学	
	MINOX-EC No.2707312	MINOX	ドイツ	1981～不明	1981	MINOX 15mm/F5.6	79×30×15	中部大学	
	MINOX 35EL No.3767179	MINOX	ドイツ	1974～	1974	Color-Minotar 35mm/F2.8	100×32×60	中部大学	
	MINOX 35GL No.4041364	MINOX	ドイツ	1979～	1979	Color-Minotar 35mm/F2.8	100×31×60	中部大学	
	MINOX 35PL No.6029506	MINOX	ドイツ	1982～	1982	Color-Minotar 35mm/F2.8	100×31×60	中部大学	
Contaflex No.A46676	Zeiss Ikon	ドイツ	1935～1939	1935	Sonnar 50mm/F1.5	107×81×140	中部大学 ※	V-01	
木製4×5カメラ No.55 一式	美吉写真機製作所	日本	不明	不明	Tessar 180mm/F4.5	230×205×235	中部大学 ※	V-02	
Linhof Technika 23 No.44772	Linhof	ドイツ	1953頃	1953	Tessar 105mm/F3.5	138×205×183	中部大学 ※	V-03	
Speed Graphic 45 No.870973	Graflex	アメリカ合衆国	1955頃	1955	Kodak Ektar 127mm/F4.7	185×275×215	中部大学 ※	V-04	
Polaroid Land Camera Model 95 No.G-72519	Poraroid	アメリカ合衆国	1948～1953頃	1948	100mm/F8.8	130×205×245	中部大学 ※	V-05	
Linhof Technika V69 No.5021349	Linhof	ドイツ	1965～	1965	Super-Angulon 65mm/F1.8	177×208×156	中部大学		
Century Graphic 45 No.517324	Graflex	アメリカ合衆国	1949頃	1949	Mamiya-sekor 90mm/F3.5	160×223×150	中部大学		
Polaroid Land Camera Model 80B	Poraroid	アメリカ合衆国	1959～1961頃	1959	100mm/F8.8	113×155×193	中部大学		
FUJICA G690BL No.2045250	富士写真フィルム	日本	1969	1969	FUJINON SI 100mm/F3.5	183×169×117	中部大学		
小西六写真 さくらPRANO	小西六写真	日本	不明	不明	Bausch&Lomb Opt co	207×255×235	中部大学		

※Linhof Technika 23 No.44772、Linhof Technika V69 No.5021349 については付属資料を追加で展示しています。

(注：蓋があるものは蓋を閉めた状態の計測数値を表記)

※図録掲載のMINOX-B No.144048(図録P20、P58)、MINOX-III s No.118866(図録P58)は、都合により展示していません。

2. 中部大学 平左エ門カメラコレクションのカメラを用いて撮影した写真作品

撮影者氏名、写真題目	撮影年	使用機種・撮影情報	寸法	所蔵
石坂千佳「淡い鯉」	2019	Zeiss Ikon CONTAX III a Carl Zeiss Jena Tessar 50mm F2.8	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
伊藤幸雄「こもれび」	2019	Leica III f Nikkor.H.C 50mm F2.0	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
上原一郎「いのちの風」	2019	Leica M4-P 35mm F1.4	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
蟹井義文「無題」	2019	Zeiss Ikon CONTAX II Carl Zeiss Opton Sonnar 50mm F2.0	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
菊池重紀「無題」	2019	Canon VT Hexanon 50mm F1.9	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
清川ひろみ「みあげてごらん」	2019	Leica D III a Leitz Elmar 35mm F3.5	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会

撮影者氏名、写真題目	撮影年	使用機種・撮影情報	寸法	所蔵
佐藤厚「無題」	2019	Rollei 35 Carl Zeiss Tessar 40mm F3.5	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
清水敏彦「トレーニング」	2019	Leica III f Nikkor.H.C 50mm F2.0	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
豊田琴未「無題」	2019	Leica M3 Ernst Leitz Gmbh Wetzlar Summarit 50mm F1.5	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
内藤和彦「試写」	2019	Leica CL Ernst Wetzlar Summicron-C 40mm F2.0	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
永井年彦「無題」	2019	Leica III f Ernst Leitz Wetzlar Summitar 50mm F2.0	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
夫馬研吉「無題」	2019	Canon II D Canon Lens 35mm F2.0	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
水野光雄「無題」	2019	Leica III g Ernst Leitz Wetzlar Summaron 35mm F3.5	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会
望月義伸「そっと咲く」	2019	Leica III f Leitz Xenon 50mm F1.5	四つ切	中部大学 平左エ門カメラ同好会

3. 関連資料

資料名称	寸法	所蔵
【伊藤平左エ門先生の中部大学における建築教育関連資料】		
伊藤平左エ門「二畳の間の床断面図と床右脇壁面の（内部）展開図（中部大学 工法庵）」	25.7×36.4cm	個人
伊藤平左エ門「二畳の間ににじり口と次の間先下地窓の壁面の（内部）展開図（中部大学 工法庵）」	25.7×36.4cm	個人
工学部建築学科伊藤研究室制作「工法庵・洞雲亭」建築模型（制作年：1986年頃）	60×24×高18.5cm	中部大学
伊藤景治著『数寄屋工法集』貞享3年刊（江戸時代）、木版本	1686年	個人
伊藤要太郎校訂『匠明・匠明五巻考』鹿島出版会、1971年		個人

【中部大学 平左エ門カメラ同好会関連資料】

- 『伊藤平左エ門のカメラ・コレクション』中部大学 平左エ門カメラ同好会、2016年
- 中部大学 平左エ門カメラ同好会による開催の企画展示ポスターおよびリーフレット（第1回～第8回）
- 第1回展示「伊藤平左エ門のカメラ・コレクション展 ライカ編」（2008年）
 - 第2回展示「伊藤平左エ門のミノックス・コレクション展」（2009年）
 - 第3回展示「伊藤平左エ門のカメラ・コレクション展 Rollei編」（2010年）
 - 第4回展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展 ～ツァイスイコンと蛇腹カメラ～」（2013年）
 - 第5回展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展 大型・他の各種カメラ」（2014年）
 - 第6回展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展と宮下カメラコレクション」（2017年）
 - 第7回展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展 カメラ女子セレクション」（2018年）
 - 第8回展示「伊藤平左エ門のカメラコレクション展 クラシックカメラで撮った写真」（2019年）

4. その他（映像資料）

- ◎工法庵、洞雲亭の建築工程の映像記録（2021年一部抜粋編集）
- ◎中部大学平左エ門カメラ同好会によるクラシックカメラの取り扱い映像記録（2021年撮影編集）
- ◎（参考）大工道具、その他の関連書籍

特別講座〈古典絵画〉

2020年度秋・2021年度春

受講生作品展

——四季を描く～金箋紙・銀箋紙

会場： 民族資料博物館 シルクロード室+附属三浦記念図書館1階エントランスホール
期間： 2022年3月22日(火)～9月30日(金)
[学園関係者限定]
内容： 当館企画の日本画実技制作講座を受講した一般参加者の成果発表として、主に2020年度秋学期から2021年度春学期までに制作した作品を展示。課題制作は「四季を描く(金箋紙・銀箋紙)」で、日本画用の色紙を一人あたり2～4枚に四季の風物をテーマに制作する他、自由制作作品を合わせて発表。
出品： 2020年度秋・2021年度春特別講座受講生作品 計42点(指導講師による賛助出品を含む)
賛助出品： 下川 辰彦 画家・日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員 2点(1対)
担当： 下川 辰彦・原田 千夏子
入館： 1,223人

2020年度は、新型コロナウイルス対策のため、春学期は休講とし、秋学期に通信制で講師が添削指導する方法で開講した。開始が半期ずれたことから、翌年度の上半期までを同課題テーマでの制作を継続した。感染症の収束が見通すことができない状況が続いていることから、この年度の講座受講生作品展は、例年よりも会期期間を長く設定することとし、2022年3月から9月末までとなった。館の活動報告時期としては、2021年度および2022年度のいずれにも関連するとし、本号では展示の開催記録として記し、作品展開催の詳細報告は、2022年度の活動報告となる次号へ掲載予定とする。(原田)

講評会

特別講座〈古典絵画〉

2019年度受講生作品展

——金屏風の小下図制作と作品

会場： 民族資料博物館 多目的室
期日： 2021年10月6日(水) [関係者限定]
講師： 下川 辰彦 画家・日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員
内容： 当館企画で2019年度に実施した一般対象の日本画実技制作講座を受講した受講生の制作作品に対する、指導講師による講評。当初、9月29日に開催予定だったところ、感染症対策のためのもん延防止対策期間が延長されたことから、期日を変更し関係者限定で開催した。展示会場において、指導講師より、各作品の構成や彩色に関する助言を受講生各自が受けた。他者の講評内容を聴講する点も受講生にとって学習の好機となり、次回作への意欲につながる。(原田)
参加： 12人



講評会の様子 2021年10月6日
(右・指導講師 下川辰彦氏)

座談会

2020年度/2021年度企画展関連

「平左エ門カメラ同好会の活動について」

- 会場： 民族資料博物館 シルクロード室
期日： 2021年10月8日（金）[関係者限定]
司会： 内藤 和彦 中部大学名誉教授・平左エ門カメラ同好会世話人
内容： 関連の企画展会期を2020年度から2021年度に変更。同関連講演は感染症対策のため中止とした。企画展会期後に、開催予定の講演のうち座談会のみを関係者限定で開催（テーマ変更）し、映像で記録した。
企画： 荒屋鋪 透、内藤 和彦、稲ヶ部 正幸、原田 千夏子
出演： 中部大学平左エ門カメラ同好会
荒屋鋪 透 中部大学民族資料博物館長・人文学部教授
参加： 13人
記録： 本座談会内容は『講演記録2020/2021』8頁以下に記載。



座談会撮影風景 2021年10月8日

2021年度の中部大学民族資料博物館は企画展覧会として『先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門カメラコレクション展』を開催した。会期は2021年3月22日（月）から9月30日（木）、会場は民族資料博物館シルクロード室である。主催は中部大学民族資料博物館、また中部大学平左エ門カメラ同好会の協力を得た。

この企画展終了後の2021年10月8日（金）、民族資料博物館の会場で平左エ門カメラ同好会による関連座談会を開催した。座談会の司会は同好会世話人である内藤和彦・中部大学名誉教授にお願いし、座談会の撮影記録を中部大学学園広報部制作課の野寄誠・担当課長が行った。実は民族資料博物館ではカメラの日である6月1日、同好会による公開シンポジウムと関連座談会を予定していたが、コロナ感染症の拡大で中止せざるを得なくなった。しかし同好会と関係者による座談会を10月8日非公開で行い、その記録を冊子と記録動画のかたちで残すことが出来た。

中部大学の伊藤平左エ門名誉教授（工学部在職：1966～1995年）が長年、収集したライカ、ローライ、ミノックス等のカメラコレクションは、伊藤平左エ門名誉教授（1922～2004）が亡くなった後の2006年、奥様の光代夫人から中部大学に遺贈され、同好会が保存、保管、公開展示などを行ってきたが2018年、民族資料博物館に大学管財部から移管された。このカメラコレクションは中部大学の学術資料として非常に貴重で重要であり、その特徴とコレクション収集の経緯、また教育者としての平左エ門先生、さらにその遺志を継いだ同好会の活動などを紹介するのが、本展の目的であった。

内藤和彦名誉教授と同好会の方々はその主旨に賛同くださり、精力的に展覧会の内容、図録の作成、展覧会場で放映された記録映像、たとえば中部大学春日井キャンパス中央にある工法庵（利休茶室復元）の造営の映像、また洞雲亭（香川県小豆島にある真言宗の寺院、観音寺）移築の記録映像、またカメラ操作などの映像の作成を、民族資料博物館スタッフと共に行っていただいた。当初、民族資料博物館が構想した以上の成果を、同好会と関係者の方々のご協力であげることが出来たのである。

最後になるが、この展覧会にご協力いただいた、ご遺族の伊藤光代氏、平山厚子氏、また伊藤平左エ門建築事務所、中部大学の内藤和彦名誉教授と平左エ門カメラ同好会の皆様に、深く感謝申し上げます。（荒屋鋪）

2020年度特別講座〈古典絵画〉

——四季を描く～金箋紙・銀箋紙

会場： 中部大学10号館106Jゼミ室他
 期間： 2020秋学期〔通信〕～2021春学期〔対面授業〕
 ＊新型コロナウイルス対策による
 2020年9月末～2021年1月末〔通信〕
 2021年4月21日(水)～7月21日(水)〔対面授業〕
 講師： 下川 辰彦 日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員
 担当： 原田 千夏子 中部大学民族資料博物館
 受講： 9人〔通信〕、15人〔対面〕(学外一般参加者＝受講料有料・定員制・通年)

箋紙とは、いわゆる色紙で、方形の小型の紙面である。一般的には記念の言葉をしたためて贈答するメッセージボードの役割で親しみがあるが、日本画では、平安時代にまでさかのぼり、屏風絵のなかに和歌をしたための小画面が起源ともいわれる。後に近世では琳派が、絵や工芸と書が融合される自由な創造を展開していく。現代の日本の生活における室内装飾にはその名残が継承されているといえる。2020年度(秋学期)から一年間の特別講座では、金銀の箋紙を、一人当たり4枚平行して描くという課題を提案した。各自が自身の思う「四季」を連想し、自由な作品制作にのぞみながら、自身の生活空間に飾る風景を含めて想像をしてもらうようにした。そのため、専用の色紙掛けを各自で誂え、簡易形式ではあるものの、絹仕立ての地模様のある和の表装に対して、作品との調和を考えて制作をすることにした。

一年間の制作期間では、途中、新型コロナウイルスの緊急事態宣言下では半期休講となった他、まん延防止対策の時期には開講方法がふだんと異なる時期があったものの、講座自体は継続して制作にあたり、一年間を通じて活動し、受講生は作品を仕上げるに至った。

コロナ禍となった2020年度の特別講座は、春学期は開講を見送り、秋学期において「通信」による方法により、受講生の作品制作をサポートする活動を試みた。受講生には、新年度の課題にあたる色紙(4枚)と、事前に作成した制作の手順と要点が記載された資料を送った。各自は在宅で作品制作を進め、制作過程において、メールや郵便によって質問や経過状況を画像に映して博物館を経由して指導講師へ伝達する流れをとった。先行きの見えないなか、わずかな質問のみでも、何らかの回答を伝えることで、筆をとる機会を持ち続ける意欲に繋がると思い、提案した。実際に対面でない具体的な技法がわかりに

くいという声や、制作にむきあうペースが落ちてしまうという声に対しては、2ヶ月に1度、学外で少人数に分かれて短時間ではあったが、制作中の作品を持ち寄ってもらい、制作の経過をみせてもらった。それぞれの作品のモチーフが活かされる構図や色づかいの効果的な要点について、課題テーマの意図を伝えながら説明することで、制作の目的をつかみ直し、自宅での単独での制作に活かすことができるように心がけた。

後半にあたる、2021年度(春学期)では、大学における、実験実習の授業と同じ対象として含めていただき、対面形式での開講が許可された。やはり、実技指導という点では、対面式でなければ伝えられない部分の多さにあらためて実感した。

全体的な作品の仕上がりにしては、多くが成果をあげており、嬉しく思う。下図制作から彩色にいたる過程において、構成や色づかい等の技術面では当然のごとく私から助言するが、この他に、最も作品を左右するのは描き手の作品に対する丁寧な姿勢である。淡塗を何度も重ねる根気強さ、努力は日々の積み重ねによって徐々に表れてくるという要素を継続するなかで作品が応えてくれると気がついていくものと伝えている。(下川)

* * * *

2020年度(秋学期)特別講座(古典絵画)(通信)

アンケート集計 アンケート回収 8名

アンケート前文「このたびは、当館の特別講座(通信)を受講いただきまして誠にありがとうございました。2020年度は新型コロナウイルス対策のなかで、初めての試みとしまして通信制の方法を実施させていただきました。2020年度の本講座の当初の終了時期を迎えますが、1月末現在、なお収束の見通しがみえてこない状況のため、対面での作品指導は今しばらくご猶予願います(緩和の時期を見計らい、講師との面談時期を検討していきます)。／一方、年度の区切り目として今回の試みに関するご意見等をおきかせいただけましたら幸いに存じます。今後の館の活動に参考にさせていただきます。以下のアンケートにご協力をお願い申し上げます。」

- 1 講座の課題制作テーマ(四季を描く一金箋紙・銀箋紙)について感想をおきかせください。

① 大変関心を深めた	6名
② 普通	2名
③ あまり関心が持てなかった	0名
- 2 講座内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。
 - ・ 四季の景物を金・銀箋紙にどのように配置するのか、絵に奥行きを出す方法、丁寧に描くことの大切さを実感しました。
 - ・ 金・銀箋で四季を描く為に自分の題材を生かす方法に気づかされました。
 - ・ 紙で描く場合と違って、思ったように彩色ができなかった。

- ・金地と銀地を使いわけて四季という4つのテーマに振り分けるといテーマを探すことはむずかしいけれど、面白くも感じました。
- ・箋紙への描き方について勉強できることが楽しみです。
- ・金銀箋紙に合う題材や構図を考えると色々テーマが浮かび、決めることが大変でした。
- ・金銀（の施された画面）に描くことは2回目になりますが、だからこそ技法も深めることが出来た。

3 講師の指導について、いかがでしたか。

- | | |
|---------|----|
| ① 満足した | 7名 |
| ② 普通 | 1名 |
| ③ いまひとつ | 0名 |

4 講師のどのような指導が良いと思われましたか。

- ・考えがつかない構図を提案して頂けるので大変勉強になりました。
- ・今回、先生に自分が描いた絵の指導を受けることができたこと。色使い、課題制作のバランス等で気がつかないことを直接、指導内容をきくことができました。
- ・下図の時に指導された様に直したら構図が大変良くなりました。
- ・コロナ禍でご指導いただけるとは思っていませんでした。自分が考えていなかった構図をご指導いただけたこと。
- ・通信ということではなかなかお訊きしたいことも訊けず残念でした。今回先生とお会いする回数がとても少なく、進捗が難しかったです。チェックいただけることが、うれしかったです。
- ・いつも丁寧に教えていただいています。ただ今回の通信は初めての経験でしたので、言葉で表すことがむずかしく戸惑いました。
- ・対面時においては1人ずつそれぞれに詳しく指導していただいた。
- ・適切な指導なのですが、こちらが十分に理解していない。

※対面＝ 指導講師の個人的意向により、2020年の10月から11月にかけての感染症が比較的落ち着いた時期に、受講生は2グループ少人数に分かれ、感染症に注意する環境下で、希望者にのみ、一人2回（月1回）程度、学外（勝川プラザ）で作品制作の説明のため指導講師と受講生の面談を実施した。少人数に分かれ、短時間での対応に注意した。感染症を発症した受講生は2月現在ではない。

（参考）他大学の通信教育では、一般的にスクーリング（対面での説明会、授業）を複数回実施し、学習内容の主旨、目的、学習の進行法等を指導する。今回の面談もそれに相当する。説明がないなかでの課題制作について、受講生の精神的懸念を危惧して、指導講師判断により実施された。

5 事務的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。

- ・通信制の講座でどのようになるのか不安でしたが、メールでの下図・画像の送信に対して、丁寧に先生に指導して頂きました。画像のプリントアウトや指導内容を郵送して頂き、お手数おかけしました。
- ・コロナ禍の中でもメールなどの連絡で教えていただくことが大切に思った。
- ・充分です。
- ・通信だと、制作のペースが落ち時が経ってしまいました。反省しています。来年度も通信となりそうでしょうか。
- ・いつも良くしていただいて感謝しております。
- ・毎回のことでありますが困ることが無いようお気遣いいただいています。

6 今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

- | | |
|---------|----|
| ① 受講する | 7名 |
| ② わからない | 1名 |
| ③ 受講しない | 0名 |

7 （感染症対策のため一時的に）通信制となる場合も、受講を希望しますか。

- | | |
|---------|----|
| ① 受講する | 7名 |
| ② わからない | 1名 |
| ③ 受講しない | 0名 |

8 当館へ改善を望まれる点などございましたら、ご意見・ご要望をお聞かせください。

- ・特別講座を継続することで作品の目的・目標に前向きになれました。通信で手間がかかると思いますが、コロナ禍の中で続けることを要望します。
- ・勝手なお願いですが、先生と会う機会を増やしてほしいと思います。
- ・指導の内容は郵送ではなく、メールがいいです。その方が早くご意見をきくことができます。

2020年度（秋学期）～2021年度（春学期） 特別講座（古典絵画） アンケート集計 アンケート回収 9名

アンケート前文「このたびは、特別講座を受講いただきまして誠にありがとうございました。2020年度は新型コロナウイルス対策のなか、初めての試みとしまして、秋学期に通信制の方法を実施させていただきました。2021年度の春学期は同課題テーマ（四季を描く—金箋紙・銀箋紙）を継続し、合わせて一年間の制作期間を通じて制作いただきました。／つきましては、課題テーマの区切り目として、皆様のご意見等を今後の館の活動に参考にさせていただきたく、以下のアンケートにご協力をお願い申し上げます。*2020年度（秋）の終了時に、通信開講に対するアンケート調査を実施していますが、今回は、2021年度（春）を含めた

一年間に対して、ご感想、ご意見等をいただきましたら幸いです。」

1 講座の課題制作テーマ（四季を描く一金箋紙・銀箋紙）について感想をおきかせください。

- ① 大変関心を深めた 8名
- ② 普通 1名
- ③ あまり関心が持てなかった 0名

2 講座内容でどのような点に関心を持ちましたか、具体的に教えてください。（自由制作も含む）

- ・四季の景物を考え、それらの色調が金箋・銀箋のどちらに合うのか、各箋紙に描く物をどのように配置すれば金・銀箋紙に描く効果が出るのか考えて描いていくことに関心を持ちました。
- ・箋紙は初めてでしたが小作品で持ち運びも容易でした。特にテーマ（四季）が良かったです。今後も活用していきたいと思いました。
- ・金地と銀地の違いについて余り考えていなかったのですが、今回の作品を通じ、良い経験をさせて頂いたと思っています。
- ・四枚の色紙に同じテーマで同時に向きあうのが題材を選ぶ上で、難しくもあり、面白くもあり…でした。
- ・初めての題材で描くことが難しかった。先生からのアドバイス・指導していただき新しい作品を仕上げることができ良かったです。
- ・通信での講義は初めての経験でしたが作品を完成させることが出来ました。大変でしたが事務の方々のおかげです。
- ・墨の濃淡、滲みで描く。
- ・テーマに沿った制作なので進めやすい。ただ本人はよく分っていないが…。
- ・金箋紙上での絵の具の載せ方が大変勉強になりました。

3 講師の指導について、いかがでしたか。

- ① 満足した 9名
- ② 普通 0名
- ③ いまひとつ 0名

4 講師のどのような指導が良いと思われましたか。

- ・描き方を実際に指導して頂けるので筆の使い方、絵の具を丁寧に溶く、絵の具の量など具体的に示して下さることがわかりやすいです。
- ・色の選択は先生のお力をお借りすると仕上りには差が出ると思います。最終の仕上げには特に。
- ・生徒それぞれにあわせて指導して頂き大変感謝しています。
- ・通信という未経験の学びの中で、先生が個別に少人数ごとのグループ指導として勝川ホテルまで出向いて下さったことは想定外で、ありがたく思いました。
- ・個々の性格を把握して見えるので描くことが出来るよう

導いて頂けることです。又自分の力で描くことが出来るよう配慮いただき作品の完成へ導いていただきました。

- ・私の絵に対する説明不足な点についても理解いただき、丁寧に指導していただき、ありがとうございました。
 - ・単調な絵が先生のアドバイスでメリハリのある絵に仕上がりました。
 - ・それぞれ個人に合った指導なので分かりやすいですが、内容を一度ではなかなか覚えられない。
 - ・個々に合わせての指導がまた参考になり勉強にもなります。
- 5 事務的な連絡手続き等で、困った点やお気づきの点がありましたら教えてください。
- ・コロナ感染の為、通信制・メールでのやりとりで指導して頂きありがとうございました。画像のプリントアウト、先生の指導内容の送付等丁寧に頂き、お手数おかけしました。
 - ・特に困ったことは有りませんがいつもお手数をおかけしています。
 - ・いつも細やかに対応して頂き、有難いです。今後ともよろしく願います。
 - ・満足しています。
 - ・親切な対応をしていただき感謝しております。
 - ・問題なし。
 - ・特にありません。

6 今後、これに類した講座を開催する場合、受講を希望しますか。

- ① 受講する 9名
- ② わからない 0名
- ③ 受講しない 0名

7（感染症対策のため一時的に）通信制となる場合も、受講を希望しますか。

- ① 受講する 9名
- ② わからない 0名
- ③ 受講しない 0名

8 当館へ改善を望まれる点などございましたら、ご意見・ご要望をお聞かせください。

- ・各自の教材の重いものを置くスペースがあるとうれしい。共有の教材道具を博物館からはなれたところの教室まで台車で毎回学生さんに運んでいただいています。これらをすぐり出せる身近にあると理想的です。望みすぎでしょうか。
- ・他の美術館、博物館の入館割引制度が利用できるとうれしいです。

2021年度 特別講座〈古典絵画〉

——画絹に描く（扇面と短冊の制作）

会場： 中部大学10号館106Jゼミ室
期間： 2021秋学期～2022春学期
2021年10月6日（水）～2022年1月19日（水）
2022年度も継続中
講師： 下川 辰彦 日本美術院特待・中部大学民族資料博物館外部専門委員
担当： 原田 千夏子 中部大学民族資料博物館
受講： 15人（学外一般参加者＝受講料有料・定員制・通年）



指導講師による実技指導の様子

2020年度が半期遅れの開講となり、通年の場合の後半にあたる半期を2021年度の春学期まで継続して行ったことから、次の新年度の講座はそのまま半年ずれ、2021年の秋学期より開講した。2022年度の春学期までの一年間を予定している。

課題テーマは、絹絵を「扇面と短冊」の2種の作品を制作する。まず1点目は、扇面の作品制作である。扇面を描いた絵画は、平安時代には奉納絵として描かれた他、屏風絵の装飾モチーフとしても描かれた。近世の琳派や土佐派の作品にもみられるように、花鳥風月を描き入れた扇面を屏風に「散らし」て描くものなどは華麗であるが、講座における作品制作では、古画の作品を参考に模写をする者、新たに図案を考える者とそれぞれ自由に取り組んでいる。

描き手の観点からみれば、扇面、という湾曲した画面にモチーフの配置構成を考えるにあたり、形のとり方はもちろん方形の画面とまた異なり、画面の形を活かした効果を考案するために図形の性質から画面構成における、日本画特有の「余白」に対する考え方を理解する必要がある。この難しさをどのように解決していくかが、今回の課題テーマの一つといえる。この構図の学びは、いずれ風炉先屏風の制作へと展開していきたいと考えている。

また、本講座では、2点目の制作として、さらに、絹絵を「短冊」の形状で2点制作し、表装に仕立てることにしている。モチーフや組み合わせの配置や大きさのレイアウトは、受講生各自の試みにまかせる。一点一点は小品であるが、組み合わせの関係性のなかにどのような物語を編むか、それぞれの想像力に大いに期待している。制作途中の難点や迷いに対しては、さまざまな解決方法をともに思案し、手助けしながら作品の完成へと導いていくつもりである。

これまで、基底材を和紙のみでなく、絹や板に描く試みも幾度が課題にもりこんできたが、今回は、さらに画面の形状が異なる作品を複数点制作し、作品を組み合わせ一つの世界を作り上げるという工程を前提に、表装を含む作品全体を総合的に構想する観点をもつ、という目的もある。日本画におけるさまざまな作品形式を、現代の室内空間で鑑賞をいかに楽しむものができるか、受講生各自が自身の作品を通じて考える場になればとも思う。

（下川）

開館日数・入館者数

2020年度

2020年度の開館日数は、98日、入館者数の合計は782名である。新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休館した期間があったことや、その後の開館も学園関係者限定としたことにより、開館日数と入館者数は共に大幅な減少となった。なお、学園関係者限定での展示室開館は2020年7月から実施し、学内の授業内、および来客等による見学を少人数に限り受け入れた。入館制限を行った期間中は、遠隔による展示室公開の新たな試みと

して、2020年11月から翌年3月まで、特別講座2019年度受講生作品展の出品作品をWEB上で公開した。また、感染症対策により、学外での博物館実習が日数不足となった博物館課程履修学生のための補講を行う要請を大学から受け、館内で初めて受け入れ対応をした。

月	2020年度			(参考：2019年度)	
	開館日数	入館者数	備 考 (主な出来事・行事)	開館日数	入館者数
4月	0	0		20	640
5月	0	0		21	700
6月	0	0		22	740
7月	10	11		23	430
8月	6	60	高校による大学見学（1件）	9	254
9月	4	25		7	83
10月	19	380	高校による大学見学（3件）、博物館実習補講	18	651
11月	19	134	高校による大学見学（1件）、CAAC連続講義内見学（13日）、博物館実習補講	21	497
12月	13	44	高校による大学見学（1件）	17	313
1月	18	47		19	321
2月	1	3	学園関係者見学（3名）	9	50
3月	8	78	2020/2021企画展（3/22～9/30）、特別講座作品展（3/22～9/30）	0	0
計	98	782	※ 長期休暇以外の臨時休館期間（4/1～7/19、8/18～9/24、10/15～16、10/26、11/30～12/6、2/1～3/19）	186	4,679

2021年度

2021年度の開館日数は、184日、入館者数の合計は1,825名である。この他、学内の別会場における催事(半期で開催する特別講座:春学期13回、秋学期13回延べ312人)の参加者数をあわせると、2021年度の催事参加者は合計で延べ2,137人となる。前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のため、学園関係者限定での開館となった。2020年度企画展の会期を2021年3月から9月に変更したうえ、会期期間を例年よりも長く設定し、感

染症の状況を観察し開館できる時期を待った。結果、9月に6日間のみ、事前予約制により一般公開日を設けた。また、企画展会期中に、展示会場映像を大学公式チャンネルから動画配信を行い、遠隔から活動状況を閲覧できる新たな試みをした。また2020年度に続き、感染症対策により、学外での博物館実習が日数不足となった博物館課程履修学生のための補講を行う要請を大学から受け、館内で受け入れ対応をした。

月	2021年度			(参考:2020年度)	
	開館日数	入館者数	備 考 (主な出来事・行事)	開館日数	入館者数
4月	21	255	入学式(1日)、高校による大学見学(1件)	0	0
5月	12	85		0	0
6月	22	109	学園関係者見学(1件)	0	0
7月	21	143	学園関係者見学(1件)、祝日見学会(22日)、高校による大学見学(1件)	10	11
8月	7	121	夏のオープンキャンパス(6~8日)	6	60
9月	14	96	一般公開日6日間(1、2、8、9、15、16日)	4	25
10月	21	403	高校による大学見学(2件)、秋のオープンキャンパス(2日)、特別講座講評会(6日)、2020/2021企画展座談会(8日)、学園関係者見学(1件)	19	380
11月	23	359	高校による大学見学(3件)、CAAC連続講義内見学(19日)、祝日見学会(3、23日)、父母との集い(27日)、学園関係者見学(1件)	19	134
12月	15	114	高校による大学見学(2件)	13	44
1月	18	72		18	47
2月	2	30	学園関係者見学(2件)	1	3
3月	8	38	特別講座作品展(3/22~9/30)、学位記授与式(23日)	8	78
計	184	1,825	※ 長期休暇以外の臨時休館期間(5/24~31、8/17~31、10/13~14、12/13~14、2/1~3/18)	98	782

2020年度 特別開館対応をした主な催事

総件数：2件 54人（参考：2019年度 8件、642人）

内訳

- ・ 休日の特別開館 : 1件 51人
- ・ 臨時休館中の特別開館 : 1件 3人

休日の特別開館：

- 1) 8月29日(土) 春日丘高等学校 51人

臨時休館期間の特別開館：

- 1) 2月15日(月) 学園関係者(創発学術院)対応 3人

授業利用：

- 1) 10月22日(木) 「国際基礎演習」 15人
- 2) 10月22日(木) 「国際基礎演習」 18人
- 3) 11月13日(金) CAAC「旅と文学」 10人
(中部大学アクティブアゲインカレッジ)

2021年度 特別開館対応をした主な催事

総件数：2件 289人（参考：2020年度 1件、51人）

内訳

- ・ 休日の特別開館 : 4件 267人
- ・ 臨時休館中の特別開館 : 2件 22人

休日の特別開館：

- 1) 8月6日(金)～8日(日)
夏のオープンキャンパス 104人
- 2) 10月2日(土) 秋のオープンキャンパス 6人
- 3) 11月27日(土) 「父母との集い」 131人
- 4) 2月11日(金・祝)
中部大学 国際ESD・SDGsセンター
「中部ESD拠点2022 SDGsフォーラム」 26人

祝日開館（祝日の授業日）：

- 1) 7月22日(木・祝) 入学センター「祝日見学会」
(高校生対象) 13人
- 2) 11月3日(水・祝) 入学センター「祝日見学会」
(高校生対象) 10人
- 3) 11月23日(火・祝) 入学センター「祝日見学会」
(高校生対象) 4人

臨時休館期間の特別開館：

- 1) 2月15日(火) 豊川市教育委員会 3人

授業利用：

- 1) 4月27日(火) 経営情報学部
スタートアップセミナー 16人
- 2) 4月27日(火) 現代教育学部
授業内見学 21人
- 3) 5月11日(火) 経営情報学部
スタートアップセミナー 29人
- 4) 6月10日(木) 国際関係学部
スタートアップセミナー 18人
- 5) 10月14日(木) 「国際基礎演習」 19人
(臨時休館中)
- 6) 10月25日(月) 「博物館展示論」 35人
- 7) 11月19日(金) CAAC講義「旅と文学」 11人
(中部大学アクティブアゲインカレッジ)
- 8) 1月17日(月) 「博物館展示論」 5人

団体見学

2020年度

入館者数のうち、高校の大学施設見学受入件数は、6件、見学総数は合計180人となり、昨年度に比べ1,774人の減少となった。

- ・ 4月1日より7月19日までと、11月30日より12月6日まで、新型コロナウイルス感染症対策につき、臨時休館とした。
- ・ 7月20日から学園関係者限定で開館を再開した。
- ・ 2020企画展「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」は開催を保留とした。
(その後、展示、および関連講演は2021年3月22日から9月30日に変更して開催した。)
- ・ 2020年3月23日から4月15日開催予定であった2019(令和元)年度特別講座「古典絵画」受講生作品展－金屏風の小下図制作－は、新型コロナウイルス感染症対策につき開催を保留とし、11月から翌年3月まで、WEB展覧会としてWEB上で出品作品を公開した。
(その後、展示は開催年度を2021年3月22日から9月30日に変更して開催した。)

2020年度 高校見学受入：
受入件数 6件、合計人数 180人
(参考：昨年度47件、計1,954人)

2020年度 その他見学等の受入：

団体見学・交流等

- 1) 2月15日(月) 学園関係者
(創発学術院)対応 3人

2021年度

入館者数のうち、高校の大学施設見学受入件数は、9件、見学総数は合計236人となり、昨年度に比べ56人の増加となった。

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策につき、学園関係者限定で開館した。
- ・ 2020企画展「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」は開催を保留とした。
(その後、展示は2021年3月22日から9月30日に変更して開催した。)
- ・ 2020年3月23日から4月15日開催予定であった2019(令和元)年度特別講座「古典絵画」受講生作品展－金屏風の小下図制作－は、新型コロナウイルス感染症対策につき開催を2021年3月22日から9月30日に変更して開催した。
- ・ 感染症の状況をみて、2種の企画展の同時期会期の終盤となる9月に一般公開日を設けて一般の方に向けて開館した(一般公開日 予約制6日間 9/1、9/2、9/8、9/9、9/15、9/16)。

2021年度 高校見学受入：
受入件数 9件、合計人数 236人
(参考：昨年度6件、計180人)

2021年度 その他見学等の受入：

団体見学・交流等

- 1) 6月30日(水) 学園関係者
(生命健康科学研究所)対応 3人
- 2) 7月14日(水) 学園関係者
(創発学術院)対応 2人
- 3) 10月12日(火) 学園関係者
(入学センター)対応 26人
- 4) 11月16日(火) 学園関係者
(総合政策推進室)対応 5人
- 5) 12月22日(水) 学園関係者
(入学センター)対応 4人

実績 3

出版

2020年度

『CHUBU UNIVERSITY CAMPUS ART MAP (中部大学キャンパス・アートマップ)』、2020年11月改訂版、全20頁。

2020/2021中部大学民族資料博物館企画展『先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～』、2021年3月1日、全64頁。

2021年度

『中部大学民族資料博物館』リーフレット(日本語)、2021年8月、3つ折印刷。

『中部大学民族資料博物館』リーフレット(英語)、2021年8月、3つ折印刷。

中部大学民族資料博物館『2020年度(秋学期)～2021年度(春学期)特別講座「古典絵画」受講生作品展記録集——四季を描く～金箋紙・銀箋紙』、2022年3月、全37頁。

『中部大学民族資料博物館 年報2020/2021』10号、2022年3月、全70頁。

『中部大学民族資料博物館 講演記録 2020/2021』、2022年3月、全44頁。

「中部大学民族資料博物館」ホームページデザインリニューアル、2021年9月。

<https://www3.chubu.ac.jp/museum/>

「中部大学 WEB ミュージアム」サイト構築、2022年3月。
<https://www.chubu.ac.jp/about/web-museum/>

実績 3

映像記録

2020年度

常設展示室の記録映像

(2020年度再編後の展示室風景の映像記録、および一部の民族資料[常設展示室の第一室(シルクロード室)に新たに展示するものを中心に]の部分詳細の映像記録)、29分50秒。

展示室放映映像

「カメラ機器の取り扱い記録映像」(中部大学 伊藤平左エ門カメラコレクションより)、17分38秒。

展示室放映映像

「中部大学の〈書院〉建築過程に関連する記録映像(一部抜粋)1988年頃～1990年頃」、15分33秒。

2021年度

2020・2021企画展 展示会場映像

(中部大学公式YouTubeチャンネル配信動画、中部大学民族資料博物館「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」)、3分40秒。

<https://www.youtube.com/watch?v=QK0IUph5StE>

2020年度、および2021年度の博物館活動について

—感染症対策期間の試みとしての映像制作

原田 千夏子

2020年2月より続くコロナ禍で、様々な行動制限のなかで大学博物館の活動においても変化への対応が余儀なくされた。展示室においてはハンズ・オン展示から鑑賞中心の展示体制への切り替える他、遠隔地から映像を配信する等、映像を活用した情報発信を少しずつではあるが、周囲の協力を得ながら取り組み始めた。2020年度から2021年度にかけて、博物館活動を停止することなく、新たな対策を講じて徐々に展開してきた。特に常設展示のリニューアルをきっかけに、関連印刷物の制作につなげ発展させた点と、各種の映像記録の制作を実施した点をここでは記しておきたい。

2020年度の上半期は、緊急事態宣言の発出にともない、計画していた催事の延期にともない、常設展示のリニューアルを実施した。開館後10年を経て、来館者の声に、展示室全体に統一したコンセプトをより具体化してイメージできる解説が不足している点を解決するために、一度、展示資料の選別を行う必要があった。これまで毎年の企画展の準備を優先する傾向であったなかで後回しにしていたが、突然に時間ができたことが決心へとつながった。展示コンセプトのキャッチフレーズを新たに定め、それに添う展示資料を再度選別し、個別の解説文もこのコンセプトに則した情報をあらためて収集し直し、それぞれに新設また補記した。これにより、展示室全体と、また展示ゾーンごとに、展示資料の制作された背景に、素材や時代性、様式など、何らかの関係性で共通したイメージがあるものを選定することとなり、コーナーごとにまとまりができ、鑑賞しやすい空間作りへとつながった。また、常設展示のレイアウト変更を検討していくうち、より鑑賞しやすい工夫は何かを考える意識が高まり、教育資料としての情報収集の他に、視覚的な統一感とリズム感から心地よい空間作りを考えた。導線や照明の問題の他、地図デザインパネルや素材紹介用のポップデザインの各種パネル制作もその成果の一つである。これを機に、館の案内リーフレットやホームページデザインも、新たなコンセプトに則したデザインイメージへ刷新することとし、翌年度の2021年度に制作、完成させた。

さらには、常設展示室のリニューアル後の映像記録も

撮影しDVD化し、当初から交流予定であった他大学博物館にお送りし、所感を得る機会をいただいた。DVD映像では、館の沿革の他、常設展示室内部と、新たに展示資料に加えた民族資料を一部取り上げ、リニューアル後の特徴を説明する内容とした。今後、これを参考に、館の紹介映像を制作していくことも検討したい。今回はそのたたき台の意も含めており、一つひとつをかたちにする中で、次の計画の足掛かりとなる点では意義のある試みであったと思う。

また、延期していた企画展について、学内への入場制限の緩和の見込みがない状態が続いたことから、2020年11月から翌2021年3月まで、「WEB展覧会」と称し、博物館ホームページ上に作品画像を掲載した冊子ページを閲覧できるよう設定し、学内外から展示作品の画像を閲覧できるようにした〔展示名称：特別講座（古典絵画）2019年度受講生作品展——金屏風の小下図制作（と作品）〕。別のかたちではあるが、企画展を実施している、というところに、作品の出品者や関係者、また大学全体において、開催している催事情報を配信することで、活動を減退させずに各自の意識を少しでも維持していきたい思いであった。

次に、2021年3月から9月にかけて開催する企画展の展示室内で放映するための映像記録を2020年度の下半期で2種類を、企画展準備期間のなかで制作した。一つは、展示資料の元の収集者である本学の名誉教授の実習教育活動の当時の風景画像が残る記録を編集したもの。もう一つは、本学の名誉教授が収集したコレクション資料の、主な3種の機器の取り扱い方法を記録した映像を編集したもの。前者は、大学のコレクション資料にちなむ大学の歴史の一側面として記録映像として保存していくきっかけとすることを念頭においた。後者は、展示資料が実際に手で持って使用されるカメラ機器であることから、実用の場面を映像で紹介するためであるとともに、デジタル化の進む近年でアナログ機器の記録を映像で残していく要望の声もあったからである。

その他、2021年度開催のこの企画展もまた、感染症対策の結果、一般入場を再開する期間は特別にわずか6日間のみ限定したこと、実質的には学外の人の目に触れる機会を逸する見込みが想定されたことから、会

期の終盤にさしかかる7月に同企画展展示室内部の風景を映像撮影し、短時間に編集したものを本学の公式サイトから動画配信した。こうした映像記録は、実物資料の展示期間終了後に、何らかのかたちで記録資料として保存していけることから、館の、または大学のアーカイブ資料となっていくことが考えられ、今後の一層の重要性を感じている。

最後に、大学の収蔵資料の情報をデータ保存する点については、もう一つの試みに当館は参加した。2021年度の下半期に、2020年度から稼働している収蔵資料データベースを基本としながら、次に公開系データベースとして、館の収蔵資料のみならず、大学の歴史資料、蝶類研究資料館の標本資料、学内の景観や植物を紹介する「中部大学WEBミュージアム」の構築を進め、完成させた。2022年5月より、大学サイトより閲覧、利用できるようになっている。構築と稼働以後、今後は、歴史的に、また学術的に有効な情報収集に努めていきたい。
(原田)

※2020年、2021年度に館で制作した映像記録の詳細については、『講演記録2020／2021』を参照。



企画展会場での記録映像放映コーナー 映像紹介の様子

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

中部大学民族資料博物館



MUSEUM HISTORY 沿革

- 1964年(昭和39) 中部工業大学開学
- 1984年(昭和59) 中部大学に名称変更
- 国際関係学部設置
- 新学と教育の一環として、世界の民族資料の収集を開始
- 1992年(平成4) 中部大学民族資料室を大学20号館に設置
- 1995年(平成7) 中部大学民族資料室を大学の附属機関である附属三浦記念図書館内に移転
- 2002年(平成14) 中部大学民族資料室を同図書館内で拡張(約300㎡)
- 2010年(平成22) 民族資料室準備室の設置
- 2011年(平成23) 中部大学民族資料室を同図書館内で展示室(約650㎡)、あわせて名称を中部大学民族資料博物館に改称

MUSEUM MAP 館内マップ



第1室〜第2室
シルクロード室

オセアニア

多目的室

アメリカ

ヨーロッパ

アジア

体験実習室

ACCESS アクセス

JR中央本線「神瀬」駅下車、名鉄バス(中部大学前)(約10分)下車すぐ

INFORMATION インフォメーション

開館時間 9:30~16:30 (入場は開館の30分前)

休館日 土曜・日曜・祝日・年末年始・大学が定める休日
(休日の授業日、行事開催日は開館予定)

入場料 無料

住所 〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200番地(附属三浦記念図書館2階)

連絡先 TEL 0568-51-1111(代表) / 0568-51-9193(直通) / FAX 0568-51-9194

WEB <https://www3.chubu.ac.jp/museum/>

E-mail minzoku@office.chubu.ac.jp

下部図表(展示室)一部への撮影はご遠慮ください
(複製、転載は本館(展示室)管理人よりご承認)

ピックアップ

第1室の土器・コイン・衣装

陸と海のネットワークが開拓されて世界の交易が展開されてきたシルクロード周辺の文化圏。農耕が始まったとされるイラン周辺の草原地域、ラクダやロバによって往来した砂漠地帯、貿易船が往来した海洋ルートのもとの原産国、それらの人びとの暮らしを想像する土器、コイン、衣装等の参考資料をあわせて展示。

第2室の版画・楽器・衣装

交易は量かさをもたらず一方、旅の往来は危険と隣り合わせ。人びとは常に旅の無事を祈り、そして日々のなかで加護への願いを、身につけるもの「かたち」に込めた。収蔵資料のうちで、特に版画、楽器、衣装を中心に、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、アメリカ各地域の伝統的な祭礼習慣や装飾に関わる参考資料をあわせて展示。

体験実習室

関連図書(交流研究者書、館の企画展図録、刊行物など)、共同研究で制作した日本の大和絵作品(国宝)を忠実に再現した現状空再現模型作品、館の素材研究で制作した天然顔料の彩色表現の色見本パネル資料(一部)等を展示。

多目的室

民族資料博物館では、常設展示の他、館内の「多目的室」他を会場に、年間に全画展と関連講演の開催や、地域の生涯学習として公開講座の開催と成果発表展等をおこなっています。

パネル展示

「世界史の交易ネットワーク関係等を図示した地図パネル

[シルクロード室]陸と海のネットワーク/仏教の伝播
[地域研究エリア] (オセアニア)バブアニューギニア/オセアニア〜ブアルカリア環礁の人のびとの生活、(アフリカ)1900年頃の 아프리카大陸/アフリカ大陸(現代)、(ヨーロッパ)モロコシのヨーロッパ進出/オランダ運河東インド会社航路図/帝国主義/19世紀以降の移民の流れ、(アジア)ムスリム商人の主な貿易路と主要取引品/東南アジアへのイスラーム伝播/茶馬古道、(アメリカ)アメリカ古代文明/16世紀の世界の貿易一帯が広がる世界史

受け継がれてきたのは、
祈りを捧げ身につけるもの



資料提供先
(インドネシア)



陸と海の交流史とともに 眺める世界

ZONE INTRODUCTION

STORY

中部大学民族資料博物館は、2011年に開館し、中部大学における国内および海外交流、海外調査のなかで寄贈等を受けた民族資料を中心に展示しています。常設展は、第1室「シルクロード室」、第2室「地域研究エリア」の二部構成からなり、第2室は、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、アメリカの、大きく5つの地域ゾーンで区分し、約4,000点ある収蔵資料のうちおよそ750点あまりを常設展示で紹介しています。

民族資料には、国、地域の自然環境に培われた天然材を加工する技術によって生み出された特長が多い一方、地域間の交易によって広い地域にもたらされ、相互に影響しあい、さらに新たな特徴を備え発展したものも多くあります。当館では、陸と海の交易路によって拓かれてきた様々な時代における世界のネットワーク交流史の「文化の往来」を、あらためて考えながら鑑賞する展示空間づくりを試みています。

第1室 シルクロード室

戦争と平和 ～ガンダラ美術と「日本画」の今
仏教発祥の地、ガンダラ地方の石窟寺院壁画の一部模写作品(表紙口絵)や、日本の国宝法隆寺金堂壁画模写作品を通じて、内乱、研究を促進させた現代の日本画作品(裏面口絵)の紹介を通じ、内乱や戦争で破壊された文化財の存在と日本の関わりを考えます。

日本画は、紙物や染物など、天然産の材料をもとに日本独自に発達してきた絵画技法。昔から古画の模写制作による修練によって、技術の伝承が現代にまでつなげられてきました。その技術は海外でも高く評価され、古代神祇や教会建築の壁画の調査や修復作業に日本の画家たちが参加協力する活動が続けられています。



第2室 地域研究エリア

「世界史」に登場する交易ネットワーク関係と民族資料
世界地図を広げて、主な大陸の位置関係を理解した上で、展示ゾーンを区分しています。「世界史」に登場する交易ネットワーク関係を図示する地図パネルとともに、地域の特徴的な資料を鑑賞することができます。

OCEANIA オセアニア

1960年代頃のハワイ・ニューギニアの記録写真(文化人類学者の撮影)文化人類学者 畑中幸子(中部大学名誉教授)がオーストラリア政府の調査活動に参加し、最後の未踏地とされた当時の現地を撮影した貴重な写真資料をパネル展示。

AFRICA アフリカ

「アフリカの祭礼」<無形文化遺産>保存活動と版画コレクション
外交官としてアフリカをはじめ各国へ赴任後、ユネスコ事務局員を務めた松浦晃一郎(現 学校法人中部大学 学事顧問)。アフリカ50ヶ国以上を訪問するなか、現地のあわれゆく文化状況を知り、世界へその保存意義を訴えた。収集したアフリカ彫刻コレクションの一部を本学へ2016年に寄贈、展示。

EUROPA ヨーロッパ

「異教、リトアニアの民族独立の精神をみつめて」文化人類学者、交流の足跡、文化人類学者 畑中幸子(中部大学名誉教授)がリトアニアの Vytautas Magnus University 客員教授を務めながら、リトアニアの歴史文化に触れた交流の記念的な資料の一部を展示。



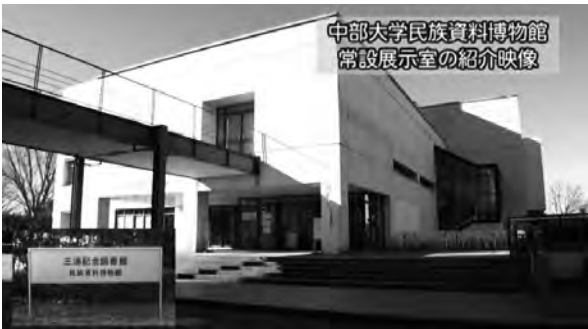
常設展示記録映像（2020年度 再編後）

所要時間： 29分50秒
企画： 2020年 中部大学民族資料博物館
編集： 学校法人中部大学 学園広報部制作課
構成： 1 中部大学民族資料博物館の沿革
2 常設展示室（第1室「シルクロード室」・
第2室「地域研究エリア」）
体験実習室
3 民族資料（シルクロード室における展示
資料を中心に）
終わりに 館長よりのメッセージ

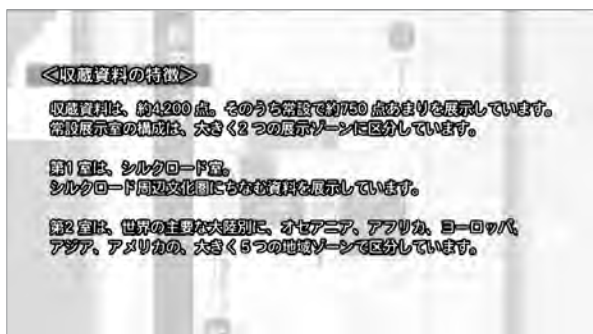
概要： 中部大学民族資料博物館の常設展示室について、2020年度に行った展示再編後の展示室風景の映像記録、および一部の民族資料[常設展示室の第一室（シルクロード室）に新たに展示するものを中心に]の部分詳細の映像記録。映像記録の制作目的は、外部の交流大学研究者との交流にあった。新型コロナウイルス感染症対策によって予定していた来訪は延期にし、代わりに館の整備後の展示室映像で紹介した。

以下、映像記録画面より

1 中部大学民族資料博物館の沿革(映像抜粋)



(中部大学附属三浦記念図書館 建物外観)
博物館は図書館2階に展示室がある。



※右記：画面テロップ文

1. 中部大学民族資料博物館 常設展示の紹介映像

<沿革>

中部大学は、1964年（昭和39年）に、「中部工業大学」として開学しました。

1984年（昭和59年）に、「中部大学」に名称変更し、文理総合大学を目指します。

同じ年に、国際関係学部を設置し、研究と教育の一環として、世界の民族資料の収集を開始します。

その後、国際関係学部のなかにあった資料室の収集資料と、学園が入りしてきた歴史資料の一部を合わせて、附属図書館2階に展示室を設けて、「中部大学民族資料博物館」が、2011年（平成23年）に開館しました。開館2年後には、「博物館相当施設」の指定を受け、博物館学芸員課程の実習の場にも活用しています。

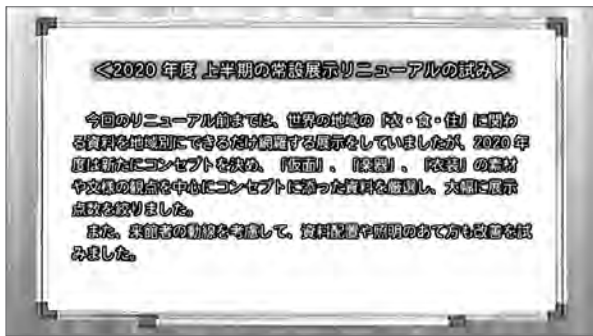
2. 収蔵資料の特徴

収蔵資料は、約4,200点。そのうち常設で約750点あまりを展示しています。常設展示室の構成は、大きく2つの展示ゾーンに区分しています。

第1室は、シルクロード室。

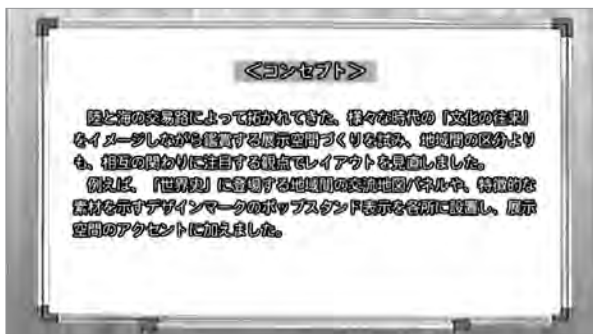
シルクロード周辺文化圏にちなむ資料を展示しています。

第2室は、世界の主要な大陸別に、オセアニア、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、アメリカの、大きく5つの地域ゾーンで区分しています。



3. 2020年度 上半期の常設展示リニューアルの試み

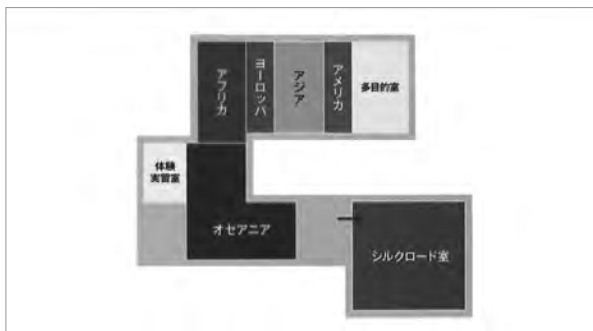
今回のリニューアル前までは、世界の地域の「衣・食・住」に関わる資料を地域別にできるだけ網羅する展示をしていましたが、2020年度は新たにコンセプトを決め、「仮面」、「楽器」、「衣装」の素材や文様の観点を中心にコンセプトに添った資料を選出し、大幅に展示点数を絞りました。また、来館者の動線を考慮して、資料配置や照明のあて方も改善を試みました。



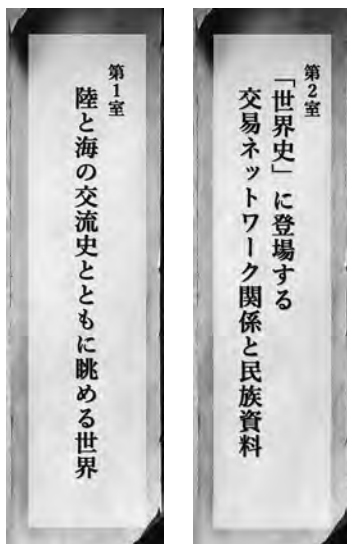
4. コンセプト

陸と海の交易路によって拓かれてきた、様々な時代の「文化の往来」をイメージしながら鑑賞する展示空間づくりを試み、地域間の区分よりも、相互の関わりに注目する観点でレイアウトを見直しました。

例えば、「世界史」に登場する地域間の交流地図パネルや、特徴的な素材を示すデザインマークのポップスタンド表示を各所に設置し、展示空間のアクセントに加えました。



5. 展示室のゾーニング案内図



○展示室に掲示したコンセプトパネル（新規作成2種）

新コンセプト

第1室 陸と海の交流史とともに眺める世界

第2室 「世界史」に登場する交易ネットワーク関係と民族資料

2 常設展示室（第1室「シルクロード室」・第2室「地域研究エリア」、体験実習室（映像抜粋）



6. 第1室入口 絵画・土器・コイン・衣装などで再編
新コンセプトパネル——陸と海の交流史とともに眺める世界（新規作成）



7. 第1室中央部
アクリルパネル8台にコイン約600枚を展示



8. ガンダーラ様式による壁画模写と現代日本画を併置した絵画コーナー展示



9. 《彩文土器》



10. 民族衣装展示（新設）



11. 地図パネル—— 仏教の伝播（新規作成）



12 第2室入口
新コンセプトパネル——「世界史」に登場する交易ネットワーク関係と民族資料（新規作成）



13. オセアニア地域ゾーンと「1960年代頃のバブアニューギニアの記録写真～文化人類学者の眼差し」コーナー、地図パネル——バブアニューギニア（新規作成）



14. オセアニア地域ゾーン 祭礼資料展示



15. 《祖霊像（儀礼用の椅子）》
バブアニューギニア



16.《儀礼用の石斧》パプアニューギニア



17.《踊り子衣装》 仏領ポリネシア タヒチ島



18. アフリカ地域ゾーンと展示室後半 (仮面、楽器、衣装等で再編) 入口に新設したパネルコーナー



19.「民族資料の素材」紹介パネル
特徴的な天然材を用いる展示資料の展示位置を図示 (新規作成)



20.「アフリカの祭礼<無形文化遺産>
保存活動と仮面コレクション」コーナー展示
(パネル新規作成)



21. アフリカの仮面紹介《仮面》マリ



22. ヨーロッパ地域ゾーンと「東欧、リトアニアの
民族独立の精神をみつめて～文化人類学者、
交流の足跡」コーナー、関連パネル (新規作成)



23. 東ヨーロッパの衣料展示 (新設)



24. 地図パネル—モンゴル帝国のヨーロッパ進出 (新規作成)



25. ヨーロッパ地域ゾーンとアジア地域ゾーン、
地図パネル—オランダ連合東インド会社航
路図 (新規作成) (展示資料新設)



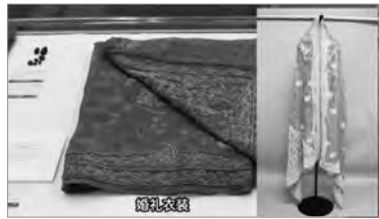
26.アジア地域ゾーン、地図パネル——ムスリム商人の主な貿易路と主要取引品（新規作成）
（展示資料一部新設）



27.インド染色用の木型とその拓本（額装）展示
拓本資料（新規作成）



28.《民族楽器“サーランギ”》インド



29.《婚礼衣装》インド



30.インドネシアの棒人形芝居「ワヤン・ゴレ」の人形《猿神ハヌマン》インドネシア（部分）
（新設）



31.《男性用の伝統衣装（正装用）“ゴ”》の部分
詳細 プータン（新設）



32.アジア地域ゾーンとアメリカ地域ゾーン、地図パネル——アメリカ古代文明（新規作成）
（展示資料一部新設）



33.アメリカ地域（中南米）ゾーン地図パネル——16世紀の世界の貿易～銀がつかぐ世界史（新規作成）



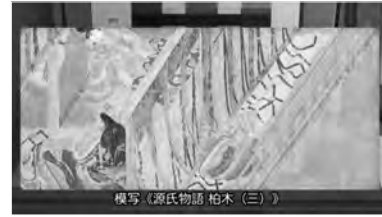
34.中南米の染色資料展示（新設）



35.《笑う顔の人物像の土偶またはガラガラ》メキシコ



36. 体験実習室
「共同研究成果作品：大和絵作品（国宝）の現状想定再現模写作品」コーナー展示（新設）



37. 《模写 源氏物語絵巻（柏木三）》（中部大学蔵）

3 民族資料（シルクロード室における展示資料を中心に）（映像抜粋）



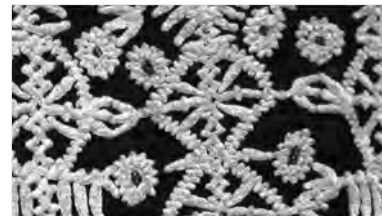
38. 《民族衣装》中国 貴州省 黄平（苗族・モン族）（新設）



39. 38.の部分詳細



40. 《祭事用のコート“チャパン”》の内側を記録ウズベキスタン（新設）



41. 《伝統衣装》の部分詳細イエメン ティファマ地方（新設）

終わりに 館長よりのメッセージ



42. 中部大学民族資料博物館の画像をご覧のみなさまへ
画像を最後まで、ご覧ください、ありがとうございました。
中部大学の民族資料博物館が収蔵する学術資料は現在、約4,000点。多くは教員の収集した人類学の資料です。科学技術がますます、人々の生活様式を変えているいまこそ、私は人類学の原点、古代ギリシア語のアンソロポス（人間）の学びとして、人間の本来的な資質や能力を、これら資料から、あらためて再考したい、と考えています。
2021年（令和3）2月
中部大学民族資料博物館長 人文学部教授 荒屋鋪 透

広報

2020年度

取材——

「中部大学民族資料博物館のアフリカ・コレクション」、『アフリカ』第60巻第1号、2020年3月31日、14-17頁

大学広報——

「民族資料博物館」、『中部大学 2021 大学案内』、13頁。

「民族資料博物館」、『CAMPUS LIFE 2020』、79頁。

「2019年度特別講座(古典絵画)受講生制作作品紹介」、『学校法人 中部大学 学園報』第556号、2020年12月20日、7頁。

その他(学外の催事案内)——

『おでかけガイド 愛知の博物館 2020.04～2020.09』、愛知県博物館協会。

2021年度

取材——

「故伊藤名誉教授の愛したカメラ53点 中部大博物館で展示」、『中日新聞』2021年4月14日、17頁。

「金びょうぶの下絵図展示 中部大受講生、日本画も」、『中日新聞』2021年7月16日、12頁。

2022年3月24日 中部大学放送研究会「chu-chu テレラジ」取材(2022年4月13日大学内インターネット放映、その他ケーブルテレビ放映)

大学広報——

「附属三浦記念図書館・民族資料博物館」、『中部大学 大学案内 2022』、13頁。

「中部大学民族資料博物館」、『CAMPUS LIFE 2021』、77頁。

「企画展 特別講座(古典絵画)2019年度受講生作品展——金屏風の小下図制作(と作品)」、『学校法人 中部大学 学園報』第560号、2021年4月20日、29頁。

「企画展「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」」、『学校法人 中部大学 学園報』第560号、2021年4月20日、29頁。

「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」、『学校法人 中部大学 学園報』第565号、2021年10月20日、9頁。

「2019年度特別講座「古典絵画」受講生作品展」、『学校法人 中部大学 学園報』第565号、2021年10月20日、9頁。

中部大学公式 YouTube チャンネル 会場風景映像の放映(約3分40秒)

「中部大学 民族資料博物館 企画展「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展」、2021年7月30日。

<https://www.youtube.com/watch?v=QK0IUph5StE>

中部大学HP 「マンスリーチューブ」サイト (「キャンパスレポート」記事掲載 (2020/2021 企画展会場紹介)「キャンパスレポート 「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」)、2021年8月6日掲載。

<https://www3.chubu.ac.jp/monthly/news/27290/>

2021年10月25日、中部大学サイト掲載用のグーグルストリートビュー撮影、2022年中部大学サイト内にて配信開始。
https://www.google.co.jp/maps/@35.2741437,137.0120875,3a,75y,355.32h,76.45t/data=!3m9!1e1!3m7!1sAF1QipNUj5WK7rJwvnr1-pxeUHKt_68vqoBjggk5yy0X!2e1!7i12098!8i6049!9m2!1b1!2i37?hl=ja

個人フェイスブック掲載 (『中部大学 キャンパス アートマップ』掲載の市橋太郎作品)。

<https://www.facebook.com/people/Taro-Ichihashi/100008540437814/>

その他 (学外の催事案内) ——

『おでかけガイド 愛知の博物館 2021.04～2021.09』、愛知県博物館協会。

『おでかけガイド 愛知の博物館 2021.10～2022.03』、愛知県博物館協会。

資料収集・保存等

2020年度

受入資料——

計7点

内訳

- ・拓本（民族資料博物館による制作） 7点

資料修復・資料保存等——

計2点

内訳

- ・民族楽器（馬頭琴）1点
- ・民族楽器（三線）1点

常設展示用の資料調査を行ったなかで、弦楽器の弦の補修が必要な資料について、専門家に依頼し、弦を張り直した。2点の弦楽器は常設展示に展示した。

その他、展示室に展示している資料、および収蔵庫に収納している資料に対し、防虫管理対応として、過去に虫害発生があった要所を中心に定期的に目視観察と清掃を定期的に行うよう心がけた。民族資料のうち、特に木製や植物繊維を材とするものや、染織衣料等へは文化財専用防虫剤を入れかえた。

収蔵資料点数総計は下表のとおり。

収蔵資料点数一覧

2021年3月31日現在

地域	点数	計	
シルクロード	コイン	616	719
	その他	103	
オセアニア	オセアニア	479	479 (76)
アジア	西アジア	74	882 (65)
	東アジア	531	
	東南アジア	201	
	南アジア	76	
アメリカ	アメリカ	259	259 (24)
アフリカ	アフリカ	96	96 (8)
ヨーロッパ	ヨーロッパ	159	159 (6)
その他	その他	8	8
小計			2,602 (179)
その他：コレクション関連資料			1,439 (22)
合計			4,041 (201)

() は、写真・映像資料数。書籍および参考資料は除く。

2021年度

寄贈資料——

計16点

内訳

- ・民族資料 14点（個人）※アフリカ関連資料
- ・絵画 2点（個人）※日本画作品

資料修復・資料保存等——

新規の寄贈資料のうち、民族資料については、二酸化炭素剤による殺虫処理（モルデナイベ利用）を行った。あわせて、収蔵資料のうち民族衣装コレクションを中心に皮革や木材、植物材などを材とする資料の一部も二酸化炭素剤による殺虫処理を行った。過去に同処理を行い経過観察中だった資料については、状態の改善を目視判断できたものは、個別収納とすることで収蔵庫へ戻した。

その他、展示室に展示している資料、および収蔵庫に収納している資料に対し、防虫管理対応として、虫害発生があった要所を中心に定期的に目視観察と清掃をこころがけた。民族資料のうち、特に木製や植物繊維を材とするものや、染織衣料等へは文化財専用防虫剤を入れかえた。

収蔵資料点数総計は下表のとおり。

収蔵資料点数一覧

2022年3月31日現在

地域	点数	計	
シルクロード	コイン	616	719
	その他	103	
オセアニア	オセアニア	479	479 (76)
アジア	西アジア	74	882 (65)
	東アジア	531	
	東南アジア	201	
	南アジア	76	
アメリカ	アメリカ	259	259 (24)
アフリカ	アフリカ	96	96 (8)
ヨーロッパ	ヨーロッパ	159	159 (6)
その他	その他	10	10
小計			2,604 (179)
その他：コレクション関連資料			1,453 (22)
合計			4,057 (201)

() は、写真・映像資料数。書籍および参考資料は除く。

資料収集・保存等（データベース構築、稼働）

2020年度

収蔵資料データベース（管理系）

2020年4月より稼働（2019年度構築）MusethequeV4

2021年度

収蔵資料データベース（公開系）

「中部大学 WEB ミュージアム」

2022年4月より稼働（2021年度構築）

MusethequeV4

<https://museweb.isc.chubu.ac.jp/archives/>

* 2022年5月より、中部大学公式WEBサイト上で公開開始

<https://www.chubu.ac.jp/about/web-museum/>

構成 3種の簡易検索方法を採用。

- 1) データベース画面検索（7つの資料項目から簡易検索）
* 文理両分野を対象に構築

「中部大学の歴史／写真」「中部大学の歴史／図書・文書」「文化史／建築・景観」
「文化史／民族・生活全般」「文化史／美術工芸」
「自然史」「技術史」

- 2) カテゴリー検索
（コンテンツ画像から検索：カテゴリー種別は入替可。定期更新想定）

- 3) WEBギャラリー（テーマ別紹介）

* 2022年4月現在のコンテンツ

「中部大学の歴史物語」「キャンパスの美観と芸術作品」
「日本産蝶類藤岡コレクション」
「(伊藤)平左エ門カメラコレクション」
「高精細画像で観る」「WEBギャラリー」

特徴

- ・ 作品資料の他、大学歴史資料、キャンパスの景観美を対象に含め大学の魅力として紹介。
- ・ 解像度の高い「高精細画像」対応機能を設定（近像撮影画像の閲覧用）。
- ・ 文理の両分野の資料を対象に登録できる「資料項目」を設定し、収蔵資料データを分類登録し構築。

登録件数（2022年4月末現在）：総計5,611件（うち公開は96件）
内訳／大学関連（44）、管財部（1,714）、
民族資料博物館（3,843）、蝶類研究資料館（10）

教育・普及

生涯学習の企画及び実践——

2020年度

2020年度 特別講座〈古典絵画〉の開講

- 会場： 中部大学10号館106Jゼミ室
 期日： 2020年9月末～2021年1月末 [通信]
 ＊新型コロナウイルス感染症対策による。
 2021年4月21日(水)～7月21日(水) [対面
 授業]
 参加： 9人 [通信]、15人 [対面] (学外一般参加者＝
 受講料有料・定員制・通年)
 目的： 大学博物館における絵画制作素材研究を通じ
 て生涯学習の教育普及。
 概要： 日本画(色紙作品他)制作
 指導講師： 下川 辰彦 画家・日本美術院特待・中部大学民
 族資料博物館外部専門委員
 担当： 原田 千夏子

2021年度

2021年度 特別講座〈古典絵画〉の開講

- 会場： 中部大学10号館106Jゼミ室
 期日： 2021年10月6日(水)～2022年1月19日(水)
 2022年度も継続中。
 参加： 15人 (学外一般参加者＝受講料有料・定員制・
 通年)
 目的： 大学博物館における絵画制作素材研究を通じ
 て生涯学習の教育普及。
 概要： 日本画(色紙作品・扇面作品他)制作
 指導講師： 下川 辰彦 画家・日本美術院特待・中部大学民
 族資料博物館外部専門委員
 担当： 原田 千夏子

その他の教育普及活動——

2020年度／2021年度

博物館実習(補講)の対応について

- 会場： 中部大学民族資料博物館
 期間： 2020年度 2020年10月19日(月)～11月11日(水)
 2021年度 2022年1月12日(水)、18日(火)、
 25日(火)
 参加： 2020年度 12人／2021年度 2人
 担当： 原田 千夏子

当館は、2015年2月に「博物館相当施設」指定を受けた施設であるが、専門的な施設整備や組織体制が不十分である点から、本学学生の博物館実習は、学外の機関で受講することが基本になっている。しかし、2020年度、2021年度は、新型コロナウイルス感染症対策で緊急事態宣言やまん延防止対策がとられる期間に実習が中断されてしまうという事態が発生したことで、その不足時間数の補填をする必要が生じ、当館での博物館実習の補講の実施を、博物館学芸員課程担当教員である荒屋鋪館長の判断のもとで決定され、一部の学生の不足日数分の補講対応をした。

1年目は人文学部4年生11人、2年目は人文学部4年生2人を受け入れた。授業時間との兼ね合いから、2人一組となって各組3日間(不足時間数に応じて4日間の学生もいる)の取り組み内容を考えた。博物館職員の日常業務と平行して断続的に、個別に順次グループの進行に合わせて対応する点は非常に時間の配分に難点があることを想定し、課題を提供しグループ学習により進行するカリキュラムを準備した。時間数を多く受講する者については、これに実践的な資料作成(スタンド型の解説文用ポップデザイン)を追加で課した。2年目には、この視覚資料の作成を2つめの課題として課した。全ての補講受講者は、あらかじめ短期間ではあるが、学外の美術博物館における実習を経ているので、学芸員の活動に関する基礎知識は認識しているものとし、当館における活動の概要説明は端的に示すにとどめた。運営組織面の説明の他は、主に民族資料を扱う館としての難問である、資料保存活動の実情について記録をもとに説明する点に特化し、むしろ、受講生がより実践的に展示資料に関わる時間を多く割くようにした。

そのための課題は、若者を対象に展示資料を紹介するキャッチフレーズ、コメント文を作成するというものである。文献調査やチームでの討論を経て、最終的に高校生や大学生の興味関心を得ることのできる語句を選び完成させる。対象や目的に応じて多くの情報のなかから必要なものを選び、チームで協力して練り上げ、他者へ響く言葉を工夫し、限られた短い文章によって、自分の言葉に咀嚼して形にする、という一連の行為を体験する場とした。

情報の受け手を連想しながら、情報を発信する、こうした鍛錬は、いうまでもなく、学芸員のみならず、社会人となった際に、なんらかの場で求められる表現能力の一つであることからとりあげてみた。実習内では、課題の目的と、提出物への評価基準を端的に説明しながら、目的意識を明確にして課題にあたってもらよう心掛けた。一部、説明不足からか、はじめ理解されていない様子もみられたので、説明の仕方を工夫し補足しなければならない場面もあったが、最終的には、目的を理解でき

た学生は目に見える成果となってあらわれた。

次にこうした機会がある場合は、図示で示すパワーポイントなどの資料を事前に用意し、私自身においても意図の伝達のために説明方法をより改善工夫してみたいと思っている。(原田)

CAAC講義「旅と文学」授業内見学

会場： 中部大学民族資料博物館 体験実習室
期日： 2020年度 2020年11月13日(金)
2021年度 2021年11月19日(金)
参加： 2020年度 10人/2021年度 14人

「授業見学における大和絵模写作品と実験研究資料の活用について」

解説担当： 原田 千夏子

2020年度、2021年度は、大学における感染症対策の指針にもとづき、博物館展示室は学内関係者限定での開館を続けている。この期間においては、本学のCAACのカリキュラムのうち、「旅と文学」の連続授業で、岡本美和子講師担当時間のなかで、毎年秋学期に大和絵の模写作品〈源氏物語絵巻 柏木三〉の作品鑑賞のために授業見学が行われた。少人数での開講である点と、鑑賞をメインとする前提で作品解説の対応をさせていただいている。

これらの大和絵の模写作品は、素材研究をテーマにした企画展への出品や、一般対象の日本画実技制作の公開講座の作品展への出品など、当館における鑑賞教育に幾度も紹介している。もともと、本学と愛知県立芸術大学との共同研究制作で、原本は国宝や重要文化財に指定されている優品である。その再現模写作品を、日本画の専門家が制作した点でも、教育的価値が非常に高い参考資料で、当館では、世界の地域の暮らしを資料紹介するなかで、素材の点から、日本の独自性を考察する資料として、日本画の材料や表現の発展に焦点をあてており、世界のさまざまな地域における天然材と比較考察する事例として紹介している。CAACの岡本講師は、「源氏物語」を文学の立場で講義される折に、こうした絵画資料を、平安時代における美的感性や美意識を具体的に感じ取るための視覚教材として活用されているのである。

見学では、ふだんガラスケースを通して展示している作品を、ケースからとりだし、近接して鑑賞できるようにしている。大和絵特有の「引き目鉤鼻」や「作り絵」による人物の繊細な彩色表現を忠実な筆線で再現されている様子や、平安時代の天然顔料の深い色合いを現代の材料で限りなく近づけようとする試みがされた画面に近

づいて顔料の美しさをみていただくためである。一般的に指定文化財の作品は、照明を落として暗い空間で、ガラスを隔てた距離で鑑賞することが多いところを、当館では、原本の姿に近い模写作品を明るい照明のもと近づいて見ていただくことができるのである。さらに2021年度は、実際に平安貴族が室内で絵巻物を鑑賞していた当時の姿を体感においても感じ取っていただこうと思い、室内の床面にシートを敷き、座観で作品を鑑賞する時間も設けた。現代では、一般的には日本画に触れる機会が非常に少なくなった生活空間にあるなか、着物や工芸のなかに継承されている、日本の伝統的な彩色美をいま一度感じ取っていただく機会になれば、と思っている。

解説では、当館で2013年に制作した、天然顔料による重ね塗りの色見本(実験パネル)も併せて資料として活用しながら、日本画における岩絵具に、数多くの色調が生み出され、透明感と深みのある美しい彩色を実現できる様子を実際に目で見て感じ取ってもらう機会としている。また、模写制作にあたり、制作にあたった画家らが、作品本来の美しさの継承を念頭に、原本の折目や絵具の剥落などをできるだけ残し、作品上の時代の経過にともなう古色を含めて再現する試みも模写に携わった研究者のあいだでは重要な制作課題であったというエピソードなど、伝統的な技法の継承に関する話題を挙げ、日本における文化財保存活動の一面として、制作現場の視点も加えている。(原田)

博物館資料の貸出と活用――

2020年度

該当なし

2021年度

・民族楽器 馬頭琴

稲沢市立三宅小学校の授業(12月)



グループ見学(2021年度CAAC講義内)での作品鑑賞の様子

調査・研究業績

以下の記載形式は、本学の『教育・研究活動に関する実態資料』（中部大学高等教育推進部）に準じる。

[対象 2020～2021年度]

荒屋鋪 透——

B. 論文＝

1. 「南蛮屏風と芥川龍之介—原三溪、京都帝国大学文学部陳列館、新村出『南蠻記』をめぐって」、中部大学総合学術誌『アリーナ』第23号 (ISSN1349-0435, ISBN978-4-8331-4150-7)、風媒社、2020年11月19日、143-164頁。

C. 口頭研究発表・講演ほか＝

1. 『先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～』図録、編集・発行、2021年3月。
2. 「『移す』と『写す』——伊藤平左エ門とライカ」、『先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展』図録、中部大学民族資料博物館、2021年3月、5-7頁。
3. 『中部大学民族資料博物館 年報 2019』9号 (ISSN 2434-2491)、編集・発行、2020年5月。
4. 『中部大学民族資料博物館 連続講演記録 2019』、中部大学民族資料博物館、編集・発行、2020年5月。

D. 諸活動＝

1. 岐阜県土岐市「ふるさと納税返礼品選定委員会」選定委員として出席、2020年8月。
2. 名古屋市美術館「資料収集委員会」（書面審査）、2021年4月。
3. 公益財団法人ポーラ美術振興財団「美術品等の収集検討のための専門委員会」（書面審査）、2020年4月。
4. 公益財団法人ポーラ美術振興財団「美術品等の収集検討のための専門委員会」（書面審査）、2020年8月。
5. 公益財団法人ポーラ美術振興財団「美術品等の収集検討のための専門委員会」（書面審査）、2020年11月。
6. 公益財団法人ポーラ美術振興財団「美術品等の収集検討のための専門委員会」（書面審査）、2020年12月。
7. 公益財団法人ポーラ美術振興財団「美術品等の収集検討のための専門委員会」（書面審査）、2021年2月。
8. 展覧会紹介記事「『風景画のはじまり』展によせて」、中日新聞（夕刊、文化・芸能欄）、2021年5月7日。
9. 元学芸員の連載回想文「開館1周年から10周年記念展の頃（あの頃、三重県美は…）」、三重県立美術館ニュースレター「HILL WIND」No.49、2021年10

月13日。

10. 公益財団法人ポーラ美術振興財団「専門委員会」、2021年4月。
11. 一般財団法人こまき市民文化財団「理事会」、2021年6月。
12. 国立西洋美術館「作品購入等選考委員会」、2021年7月。
13. 千葉県立美術館「資料審査委員会」、2021年11月。
14. 名古屋市美術館「資料収集会議」、2022年1月。
15. 一般財団法人こまき市民文化財団「理事会」、2022年2月。

前田 富士男——

A. 著書＝

1. 『〈恵みの力は、弱さのなかでこそ発揮される〉——A・v・カンペンハウド神父司祭叙階70周年記念（共編著）、教友社、2021年11月30日。
2. 『科学と芸術——自然と人間の調和』（共著）、酒井邦嘉監修・日本科学協会編、中央公論新社、2022年2月25日。

B. 論文＝

1. 「危機と戦うバウハウス・デザイン——ヴァルター・グローピウスとK・Fr・シンケルの〈例外状態〉を再考する」、『形の文化研究 2019』13号、形の文化会、2020年3月31日、23-60頁。
2. 「バウハウス（1919-1933）——主要参考文献／1919-1933-2019」、『形の文化研究 2019』13号、形の文化会、2020年3月31日、67-76頁。
3. 「音楽と庭園を〈展示〉するデフォルト——栃木県立美術館『山田耕筰と美術』展とベルリン『地上の悦びの庭園』展」、『中部大学民族資料博物館年報 2019』9号、中部大学民族資料博物館、2020年3月31日、60-63頁。
4. 「〈境界〉を超える芸術としての庭園——〈池の水滴は、そのままひとつの庭である〉」、『三田評論・2021年6月号特集「公園から都市をみる」』1256号、慶應義塾、2020年6月1日、48-54頁。
5. 「宣教の小舟を漕ぎつづける——ヒューマニスト・カンペンハウド神父」、『〈恵みの力は、弱さのなかでこそ発揮される——アンドレ・ヴァン・カンペンハウド神父司祭叙階70周年記念〉 遠藤俊義・前田富士男編、教友社、2021年11月30日、155-157頁。
6. 「科学と芸術をめぐる近代のパラドックス——ゲーテ自然科学における形態学と菌類生物の〈ポリネーション〉」、『科学と芸術——自然と人間の調和』酒井邦嘉監修、日本科学協会編、中央公論新社、

2022年2月25日、165-192頁。

7. 「相補(Komplementär)」としてのポイエーシス——「一般芸術学」をめぐるM・デッソワとA・シュマルゾー、そして澤木四方吉」、『芸術学』25号、三田芸術学会、2022年3月31日、89-122頁。

C. 書評ほか＝

1. 「形の文化会と金子務名誉会長／研究業績」(共著・共編)、『形の文化研究2020』14号、形の文化会、2021年3月31日、37-42頁。
2. 書評・大森淳司著『〈ブリュッケ〉とその時代——個人主義と共同体とのあいだで』(三元社、2019年)、『美学259号』美学会編、2021年12月31日、100-106頁。

D. 口頭研究発表・講演ほか＝

1. 「バウハウス100年における論争と葛藤——美術史のヒストリオグラフィー(Historiografie)とポスト・ヒストリカル」のいま、三田芸術学会・例会 慶應義塾大学 2020年1月23日。
2. 「自然科学と芸術——1960年と2000年の二つの〈転回〉」、日本科学協会・科学隣接領域研究会第12回「科学と芸術」、日本科学協会・虎ノ門、2020年1月28日。
3. 「パウル・クレー《海のカタツムリの王》——境界線上の生命体：前田富士男」、アート・アーカイブ探究 2022年2月15日号／スタディ／インターネットサイト「アートスケープ」(DNP文化振興財団)

E. 諸活動＝

1. 形の文化会、幹事。形の文化会・大会フォーラム運営担当。
2. ゲーテ自然科学の集い、顧問。
3. DNP(大日本印刷)文化財団、評議員。
4. 慶應義塾大学学術研究支援部、科研申請アドバイスカンファレンス、講師。

原田 千夏子——

B. 論文＝

1. 「箋紙の制作と色紙掛け」『2020年度(秋学期)～2021年度(春学期)特別講座「古典絵画」受講生作品展記録集——四季を描く～金箋紙・銀箋紙』、中部大学民族資料博物館、2022年3月、1-2頁。
2. 活動報告「常設展示リニューアル コンセプト再考と視覚教材資料の新たな活用」『中部大学民族資料博物館 年報 2020/2021』10号、2022年、8-9頁。

「中部大学民族資料博物館 ニュースレター17号」2022年、2-4頁。

3. 活動報告「2020年度、および2021年度の博物館活動として——感染症期間の試みとしての映像制作」『中部大学民族資料博物館 講演記録2020/2021』2022年、20-21頁。『中部大学民族資料博物館 年報 2020/2021』10号、2022年、31-32頁。

C. 口頭研究発表・講演ほか＝

1. 解説「《源氏物語絵巻(柏木三)作品解説》」、中部大学民族資料博物館、CAAC講義内、2020年11月13日 / 2021年11月19日。

D. 諸活動＝

1. ① 企画および解説、印刷物編集「中部大学民族資料博物館 常設展示リニューアル」中部大学民族資料博物館、2020年4月～9月。
② 企画および解説、印刷物編集「中部大学民族資料博物館 常設展示リニューアル映像記録」中部大学民族資料博物館、2021年2月。
③ 企画・展示および解説、図録編集「2020/2021 中部大学民族資料博物館企画展 先生が愛したカメラたち ～伊藤平左エ門のカメラコレクション」展、中部大学民族資料博物館、2021年3月。
※図録における執筆担当箇所
「展示概要 技術探求の眼と手——解体と組み立て」
第二章 平左エ門先生と建築教育」
「資料編 活動歴」
「資料編 歴代の伊藤平左エ門」
「資料編 伊藤平左エ門著作」
「資料編 伊藤平左エ門先生をよく知るための書籍」
「資料編 伊藤平左エ門主要設計作品」
「資料編 カメラ入門編等の参考書籍」
④ 企画・映像編集「展示室放映映像「中部大学の〈書院〉建築過程に関連する記録映像(一部抜粋)1988年頃～1990年頃」、中部大学民族資料博物館、2021年3月。
⑤ 企画・映像編集「2020・2021企画展 展示会場映像(中部大学公式YouTubeチャンネル配信動画)(中部大学民族資料博物館「先生が愛したカメラたち～伊藤平左エ門のカメラコレクション展～」)、2021年7月。
⑥ 企画・展示および印刷物編集『2019年度特別講座「古典絵画」受講生作品展記録集——金屏

風の小下制作（と作品）』、中部大学民族資料博物館、2021年3月。

- ⑦ 企画および解説、印刷物編集「中部大学民族資料博物館 案内リーフレット」中部大学民族資料博物館、2021年7月。
- ⑧ 企画、および記録、ホームページ編集「中部大学民族資料博物館ホームページ改訂版」2021年7月。
- ⑨ 企画および解説、印刷物編集「公開系収蔵資料データベース〈中部大学WEBミュージアム〉」構築。中部大学学事部学事課（民族資料博物館担当）、2021年10月～2022年3月。
- ⑩ 企画・展示および印刷物編集『2020年度（秋学期）～2021年度（春学期）特別講座「古典絵画」受講生作品展記録集——四季を描く～金箋紙・銀箋紙』、中部大学民族資料博物館、2022年3月。

2. 調査 ① 中部大学における歴史資料に関する調査（公開系収蔵資料データベース〈中部大学WEBミュージアム〉構築用各種解説作成、中部大学、2021年8月～2022年3月。

実績 8

出張業務

2020年度

該当なし（新型コロナウイルス感染症対策期間）

2021年度

- | | |
|--------|----------------------------|
| 4月20日 | 企画展関連調査（個人宅）（荒屋鋪・原田） |
| 7月14日 | 企画展関連調査（個人宅）（荒屋鋪・原田） |
| 10月22日 | 企画展関連取材、およびアンケート調査（個人）（原田） |
| 12月7日 | 企画展関連資料借用、取材調査（個人宅）（原田） |

会議

2020年度

定例打合せ――

- 第1回 2020年4月1日
- 第2回 2020年5月27日
- 第3回 2020年6月30日
- 第4回 2020年7月29日
- 第5回 2020年9月28日
- 第6回 2020年10月20日
- 第7回 2020年11月10日
- 第8回 2020年11月24日
- 第9回 2020年12月7日
- 第10回 2020年12月15日
- 第11回 2021年1月12日
- 第12回 2021年2月17日
- 第13回 2021年3月11日
- 第14回 2021年3月17日

運営委員会――

第1回 議事(2021年3月24日)

報告事項

- 1 2020年度 運営委員について
- 2 2019年度 事業活動

審議事項

- 1 2019年度 決算案
 - 2 2020年度 予算案
 - 3 2020年度 事業活動案
 - 4 2020年度 新規受入れ資料について
 - 5 外部専門委員会設置要綱の改正について
 - 6 外部専門委員の委嘱について
 - 7 2021年度 事業計画案
- その他 展示室見学

外部専門委員会――

第1回 議事(書面審議:期間2021年3月25日～4月30日)

報告事項

- 1 2019年度における収蔵資料概要、入館者数、開館日数ほか活動の概況

審議事項

- 1 2020年度催事計画の経過
- 2 2020年度予算状況

当館の活動全般評価

2021年度

定例打合せ――

- 第1回 2021年4月2日
- 第2回 2021年4月21日
- 第3回 2021年5月11日
- 第4回 2021年5月26日
- 第5回 2021年6月16日
- 第6回 2021年6月24日
- 第7回 2021年7月14日
- 第8回 2021年7月28日
- 第9回 2021年10月7日
- 第10回 2021年11月4日
- 第11回 2021年12月22日
- 第12回 2022年1月25日
- 第13回 2022年2月16日
- 第14回 2022年2月28日
- 第15回 2022年3月10日
- 第16回 2022年3月16日

運営委員会――

第1回 議事(書面審議:期間2022年1月28日～2月10日)

報告事項

- 1 2020年度 運営委員について
- 2 2020年度 事業活動

審議事項

- 3 2020年度 決算案
- 4 2021年度 予算案
- 5 2021年度 事業活動案
- 6 2022年度 客員教授の委嘱について
- 7 中部大学WEBミュージアム(仮称)について

第2回 議事(書面審議:期間2022年3月7日～3月18日)

審議事項

- 1 2021年度 寄贈資料について
- 2 2022年度 外部専門委員の委嘱について
- 3 2022年度 事業活動案

2

組織・施設



再編後の体験実習室

組織 1

職員

2020年度

館長	荒屋鋪 透 人文学部 教授 学芸員資格保有
専任事務員	稲ヶ部 正幸 学校法人中部大学 学術支援部長 (2020年6月まで) 中部大学 学事部担当部長 (2020年7月から)
専任事務員	原田 千夏子 学芸員兼務 (学芸員資格保有) 学術支援課 (2020年6月まで) 学事課 (民族資料博物館担当) (2020年7月から)
客員教授	前田 富士男 学芸員資格保有
事務補助	宮沢 桂子
事務補助	梶藤 有美

2021年度

館長	荒屋鋪 透 人文学部 教授 学芸員資格保有
専任事務員	稲ヶ部 正幸 中部大学 学事部担当部長
専任事務員	原田 千夏子 学芸員兼務 (学芸員資格保有) 学事課 (民族資料博物館担当)
客員教授	前田 富士男 学芸員資格保有
事務補助	宮沢 桂子
事務補助	梶藤 有美

組織 2

運営委員

2020年度

委員長	荒屋鋪 透 民族資料博物館長・人文学部教授
委員	
國分 泰雄	担当副学長・電子情報工学科教授
稲川 直樹	工学部建築学科教授
河内 信幸	国際関係学部国際学科教授
黄 強	国際関係学部国際学科教授
中野 智章	国際関係学部国際学科教授
嘉原 優子	人文学部日本語日本文化学科教授
デービッド・ローレンス	人文学部英語英米文化学科准教授
西山 伸一	人文学部准教授
大橋 岳	人文学部講師
上野 薫	応用生物学部環境生物科学科准教授
前田 富士男	中部大学客員教授
竹田 佳乃	管財部長
竹中 正和	学事部長 (7月より)
稲ヶ部 正幸	学事部担当部長 (7月より)
原田 千夏子	学事部学事課 (民族資料博物館担当) (事務局)

外部専門委員

2021年度

委員長

荒屋鋪 透 民族資料博物館長・人文学部教授

委員

花井 忠征 副学長・現代教育学部幼児教育学科教授

稲川 直樹 工学部建築学科教授

黄 強 国際関係学部国際学科教授

中野 智章 国際関係学部国際学科教授

嘉原 優子 人文学部日本語日本文化学科教授

岡本 聡 人文学部日本語日本文化学科教授

デービッド・ローレンス

人文学部英語英米文化学科准教授

西山 伸一 人文学部教授

大橋 岳 人文学部講師

上野 薫 応用生物学部環境生物科学科准教授

前田 富士男 中部大学客員教授

竹田 佳乃 管財部長

竹中 正和 学事部長

稲ヶ部 正幸 学事部担当部長

原田 千夏子 学事部学事課

庶務

学事部

2020年度

委員

川上 實 愛知県立芸術大学名誉教授・元学長

下川 辰彦 画家・日本美術院特待

高橋 晴子 国立民族学博物館 学術資源研究開発センター外来研究員

福山 泰子 龍谷大学 国際学部グローバルスタディーズ学科教授

2021年度

委員

下川 辰彦 画家・日本美術院特待

高橋 晴子 国立民族学博物館 学術資源研究開発センター外来研究員

福山 泰子 龍谷大学 国際学部グローバルスタディーズ学科教授

中部大学民族資料博物館規程

(設置)

第1条 中部大学(以下「本学」という。)における教育、研究及び文化の振興を図るため、中部大学民族資料博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(目的)

第2条 博物館は、本学の教育方針にのっとり、文化的資料、記録、視聴覚教育資料その他必要な資料(以下「博物館資料」という。)を収集、整理、保存、公開して教職員、学生等の利用に供するとともに、展覧会等を通して社会貢献を行うことを目的とする。

(事業)

第3条 博物館は、前条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 博物館資料を収集し、保管し、及び閲覧に供すること。
- (2) 展覧会、講演会等の催しを開催し、及び他のものを行うこれらの催しに協力すること。
- (3) 博物館資料の利用に関し、必要な説明、助言等を行うこと。
- (4) 解説書、調査研究の報告書等を作成すること。
- (5) 他の博物館等と連携し、及び協力すること。
- (6) 地域の教育文化施設が行う文化、文学、美術等芸術に関する活動を援助すること。
- (7) その他博物館の目的を達成するために必要なこと。

(職員)

第4条 博物館に、博物館長、副館長及びその他学芸員など必要な職員を置く。

(博物館運営委員会)

第5条 博物館に、博物館の運営に関する重要事項を審議するため、博物館運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会に関する事項は、別に定める。

(利用)

第6条 博物館の利用に関する事項は、別に定める。

(事務)

第7条 博物館に関する事務は、学事部において処理する。

(施行細則)

第8条 この規程に定めるもののほか、博物館の管理及び運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、学長が定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月16日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2019年4月17日から施行し、2019年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2020年9月16日から施行し、2020年7月1日から適用する。

中部大学民族資料博物館 運営委員会規程

(設置)

第1条 中部大学民族資料博物館規程第5条第2項の規定に基づき、民族資料博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）に関する事項は、この規程の定めるところによる。

(審議事項)

第2条 運営委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 博物館の運営、整備に関する基本事項
- (2) 博物館の利用方策（地域等への開放を含む。）に関する事項
- (3) 博物館情報システムに関する事項
- (4) その他博物館の運営に関する重要事項

(組織)

第3条 運営委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長のうちから学長が指名する者
- (2) 博物館長
- (3) 副館長
- (4) 学長が指名する者

(任命)

第4条 委員は、学長が任命する。

(任期)

第5条 第3条第4号の委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 前項の委員に欠員が生じ、学長が欠員を補充する場合の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第6条 運営委員会に委員長を置き、博物館長をもって充てる。

2 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(定足数及び議決数)

第7条 運営委員会は、委員の過半数の出席によって成立し、議事は出席者の過半数で決する。

(審議結果の報告)

第8条 委員長は、運営委員会において決定した重要事項を中部大学協議会に報告するものとする。

(専門部会)

第9条 運営委員会に、必要に応じて、専門部会を置くことができる。

2 専門部会に関する事項は、別に定める。

(庶務)

第10条 運営委員会の庶務は、学事部において処理する。

(運営細則)

第11条 この規程に定めるもののほか、運営委員会の運営に関し必要な事項は、運営委員会の議を経て、学長が定める。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月16日から施行し、平成26年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成29年6月21日から施行し、平成29年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2019年4月17日から施行し、2019年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、2020年9月16日から施行し、2020年7月1日から適用する。

中部大学民族資料博物館

外部専門委員会設置要項

(設置)

第1条 中部大学民族資料博物館（以下「博物館」という。）に、博物館の活動について、学外の有識者から適切な指導・助言及び評価を得るため、中部大学民族資料博物館外部専門委員会（以下「外部専門委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 外部専門委員会は、学外の有識者で組織し、委員は、博物館運営委員会の議を経て、館長が委嘱する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

3 外部専門委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

(招集)

第3条 外部専門委員会の開催は、必要に応じて館長が招集する。

(庶務)

第4条 外部専門委員会に関する庶務は、学事部において処理する。

(その他)

第5条 この要項に定めるもののほか、外部専門委員会について必要な事項は、博物館運営委員会の議を経て、館長が定める。

附 則

1 この要項は、2020年4月1日から施行する。

2 中部大学民族資料博物館外部専門者会議（博物館外部委員会）施行規則（平成24年7月1日制定）は、廃止する。

中部大学民族資料博物館 管理運営細則

(趣旨)

第1条 この細則は、中部大学民族資料博物館規程第8条の規定に基づき、博物館の入館等に関し必要な事項を定めるものとする。

(博物館の開館)

第2条 博物館の開館は、平日の月曜から金曜までの午前9時30分から午後4時30分までとし、入館は閉館の30分前までとする。ただし、大学の定める休日や夏季一斉休暇期間、冬季年末年始の休暇期間は閉館することがある。

(博物館の見学)

第3条 博物館の見学は無料とし、学内外のすべての人が入館することができる。

2 団体による見学を希望する者は、様式1の申請書を提出のうえ、見学の許可を受けるものとする。

(写真撮影及び写真の使用)

第4条 展示室での写真撮影は原則禁止とする。ただし、調査研究のために撮影を希望する者は、様式2の申請書を提出のうえ、撮影許可を受けるものとする。

2 撮影された写真の利用に関しては、次の条件を満たすことを必要とする。

- (1) 利用に際しては、中部大学民族資料博物館の所蔵であることを明示すること。
- (2) 撮影、借用等によって得られた複製物については、申請書に記載した目的又は方法以外の利用並びに転貸は禁止とする。
- (3) 著作権法上の問題が生じた場合は、申請者がその責をすべて負うこととする。
- (4) 出版物及びテレビ放映等に利用した場合には、当該出版物を添えて報告すること。
- (5) 撮影によって資料を損傷したときは、資料の修復及び複製等に要する経費は申請者が負担する。

(収蔵資料の調査)

第5条 展示室で収蔵資料についての調査を希望する者は、様式3の申請書を提出のうえ、調査の許可を得るものとする。

2 調査を許可する際は、次の条件を付す。

- (1) 撮影・借用等によって得られた複製物について、申請書に記載した目的又は方法以外の利用並びに転貸は禁止とする。

(2) 閲覧によって資料を損傷したときは、資料の修復及び再製等に要する経費は申請者が負担する。

(収蔵資料の貸出)

第6条 博物館の収蔵資料の貸出については、別途博物館貸出要綱に基づいて運営するものとする。

(資料の寄贈及び評価)

第7条 博物館資料の寄贈については、別途博物館寄贈資料受入要綱及び資料評価要綱に基づいて運営するものとする。

附 則

この細則は、平成24年4月1日から実施する。

写真撮影申請書

(様式2-1)

年 月 日

中部大学民族資料博物館長 殿

申請者
(住 所)
(機関名)
(代表者) 印

資料写真の撮影、掲載について(依頼)

下記のとおり、貴館収蔵資料の写真使用・掲載を申請します。

記

1. 資料名 (点)

2. 資料提供の形式
フィルム・デジタルデータ・その他()

3. 掲載出版物・製作物名

4. 掲載書発行予定年月日
年 月 日

5. 担当者氏名・連絡先

6. 備考・補遺

以上

団体見学申請書

(様式1)

年 月 日

中部大学民族資料博物館長 殿

申請者
(住 所)
(団体名)
(代表者) 印

展示室見学について(依頼)

下記のとおり、団体見学の受け入れをお願いいたします。

記

1. 日時 年 月 日()
時 分 ~ 時 分

2. 人数 人
内訳・引率者 人
・小学生未満 人
・小学生(学年) 人
・中学生(学年) 人
・高校生(学年) 人
・学生 人
・大人 人

3. 目的

4. 担当・引率者氏名
連絡先

5. 備考・補遺

以上

資料調査申請書

(様式3)

年 月 日

中部大学民族資料博物館長 殿

申請者
(住 所)
(連絡先)
(氏 名)
(所 属) 印

資料調査願

貴館所蔵の資料を下記のとおり調査させていただきたく、お願い申し上げます。

記

1. 日時

2. 資料(資料名・利用資料点数を明記)

3. 目的

4. 方法(閲覧・撮影・実測など)

5. 備考・補遺

以上

中部大学民族資料博物館寄贈資料受入要綱

(目的)

第1条 この要綱は、博物館の寄贈資料の受け入れに
 必要な事項を定めるものとする。

(条件)

第2条 寄贈資料を受け入れしようとするときは、次の
 各号の条件に適合するものでなければならない。

- (1) 寄贈資料の受け入れをしようとするときは、学術的か
 つ研究的に優れたものである場合のほか、高額及び大
 量の寄贈資料を受ける場合は、民族資料博物館運営委
 員会の議を経なければならない。ただし、教職員の退
 職等の際に寄贈を受ける場合は、所属長の推薦を必要
 とする。
- (2) 寄贈資料は、保存が可能であり維持管理ができるもの
 であること。
- (3) 資料の活用について、寄贈条件が付けられていない
 ものであること。

(評価)

第3条 寄贈資料については、原則として評価を受けな
 ければならない。

(表彰)

第4条 高額な資料の寄贈については、感謝状ないしは
 表彰をすることができるものとする。

(その他)

第5条 学校法人中部大学固定資産及び物品管理規程の
 物件に該当する寄贈申し込みがあった場合は、規定に基
 づき受贈手続きを行う。また、受け入れにあたって工事
 等が必要となる場合は、事前に管財部と協議するものと
 する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から実施する。

資料寄贈申請書

資料寄贈申請書	
中部大学民族資料博物館 殿	年 月 日
申請者 住 所	_____
電 話 ()	_____
氏 名	_____ 印
私蔵、所蔵する下記資料を寄贈したく、ここに申請します。 寄贈・寄託後の保管・取扱いほかについては、貴館にすべて委任します。	
資料名	
資料分類	民族資料／美術・芸術資料／文化・社会史資料／自然史・技術史資料／ 画像・音響・データメディア資料／図書・文書資料／その他
資料種類・仕様	
形状・数量	計 点
資料制作者・製作団体	制作者氏名： (年生— 年没)
制作・製作・成立地・ 収蔵地 成立事由	制作地： 事由：
資料制作・成立年月	年 月 日 (頃) < 時代 >
本資料の来歴1： 取得先・関係機関 取得からの経緯	本資料取得先： 取得から現在までの経緯：
取得年月日 取得金額	年 月 日 (頃) 取得 円 (相当)
本資料の来歴2： 展示・研究紹介ほか	
寄贈申請理由	
備 考	
※記入欄が不足するときは、別紙に一覧等で作成のうえ資料として添付。	

中部大学民族資料博物館収蔵資料貸出要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、博物館の収蔵資料の貸出に関し必要な事項を定めるものとする。

(貸出期間)

第2条 収蔵資料の貸出期間は、原則として2ヶ月以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めた場合には、この貸出期間を変更することができる。

(借用願)

第3条 収蔵資料の貸出を受けようとする者は、様式1による収蔵資料借用願（以下「借用願」という。）を博物館長に提出し、その許可を受けなければならない。ただし、高額及び大量の貸出については、民族資料博物館運営委員会の議を経なければならない。

(貸出の許可)

第4条 博物館長は、借用願の内容を適当と認めた場合は、次の条件を付して貸出を許可することができる。

- (1) 貸出を許可した収蔵資料（以下「貸出資料」という。）については、損傷、亡失等のないよう万全の措置を講ずるとともに所要の保険に加入し、不測の事故に備えること。
ただし、博物館長が特に必要でないとして認めた場合は、この限りではない。
- (2) 貸出資料を損傷、亡失等した場合には、申請者が弁償の責を負うこと。
- (3) 貸出資料を借用の目的以外の用途にあてないこと。
- (4) 貸出資料の写真撮影、模写等は行わないこと。ただし、事前に許可を受けた場合は、この限りではない。
- (5) 撮影、借用等によって得られた複製物について、申請書に記載した目的又は方法以外の利用並びに転貸は禁止とする。著作権法上の問題が生じた場合は、申請者がその責をすべて負うこと。
- (6) 貸出資料をやむを得ない理由により貸出許可期間内に返却できないときは、速やかにその旨を博物館長に報告し、許可を得ること。
- (7) 貸出資料の取扱いは、学芸員又はこれと同等の能力を有すると認められた者に行わせ、また、運搬にあたっては美術運搬の専門業者に行わせるものとする。ただし、博物館長が特に必要でないとして認めた場合は、この限りではない。

(借用書)

第5条 借用許可を受けた者は、貸出資料と引き換えに博物館長に様式2による借用書を提出すること。

(貸出時と返却時の確認)

第6条 博物館長は、返却された貸出資料の状態を借業者立会いのもとに写真その他の方法により点検し、原則として様式3による貸出・返却資料確認調書を作成する。

(貸出期間中における返却義務)

第7条 借業者が本要綱に定める条件を履行しないとき、又は大学が貸出資料を必要とするときは、借業者は貸出期間中であっても当該貸出資料の返却を拒むことができない。この場合、借業者に損害が生じてもこれに対する補償を要求することはできない。

(その他)

第8条 高額及び大量の貸出申込があった場合は、貸出資料等を調査し、事前に管財部と協議するものとする。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から実施する。

資料借用申請書

(様式1)

年 月 日

中部大学民族資料博物館 殿

(借業者住所)
(借業者氏名) 印

収 蔵 資 料 借 用 願

貴大学の収蔵資料について、下記のとおり借用したいので、よろしくお願いします。

記

借 用 目 的	
借 用 期 間	年 月 日から 年 月 日まで
利 用 場 所	
利 用 方 法	
借 用 資 料 品 名 ()	
資料取扱責任者	

関係法規

中部大学民族資料博物館は2013（平成25年）2月に、愛知県教育委員会から「博物館相当施設」の指定を受け、わが国の「博物館法」に則して活動している。

博物館法

第1章 総 則

（この法律の目的）

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設定及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定義）

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項に規定する独立行政法人をいう。第29条において同じ。）を除く。）が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によつては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。）をいう。

（博物館の事業）

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

一 実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。

二 分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。

三 一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。

四 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。

五 博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。

六 博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。

七 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。

八 当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和25年法律第214号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。

九 社会教育における学習の機会を利用して行つた学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。

十 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。

十一 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。

2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員その他の職員）

第4条 博物館に、館長を置く。

2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。

3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。

4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。

5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。

6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

（学芸員の資格）

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

一 学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの

二 大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目

の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあつたもの

三 文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前2号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めたる者

2 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

（学芸員補の資格）

第6条 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

（学芸員及び学芸員補の研修）

第7条 文部科学大臣及び都道府県の教育委員会は、学芸員及び学芸員補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。

（設置及び運営上望ましい基準）

第8条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

第2章 登録

（登録）

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会（当該博物館（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市をいう。以下この条及び第29条において同じ。）の区域内に所在する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会。同条を除き、以下同じ。）に備える博物館登録原簿に登録

を受けるものとする。

（登録の申請）

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。

- 一 設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
- 二 名称
- 三 所在地

2 前項の登録申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

一 公立博物館にあつては、設置条例の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

二 私立博物館にあつては、当該法人の定款の写又は当該宗教法人の規則の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

（登録要件の審査）

第12条 都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めるときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めるときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- 一 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- 二 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- 三 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- 四 1年を通じて150日以上開館すること。

（登録事項等の変更）

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、第11条第1項各号に掲

げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めるとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準につい

ては、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他持物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を改正する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第1号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第3号及び第4号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

一 当該博物館について、第14条の規定による登録の取消があつたとき。

二 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。

三 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。

四 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県の教育委員会との関係)

第27条 都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会（当該施設（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市の区域内に所在する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会）が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものであるについては、第27条第2項の規定を準用する。

昭和26・12・1法律285号／改正平成26・6・4・法律51号（施行＝平成27年4月1日）

* 博物館法については、2022（令和4）年4月15日に博物館法の一部を改正する改正法が公布、施行期日は令和5年4月1日と定められたが、本誌（年報10号）は、2020年度および2021年度の活動記録を掲載する内容のため、2021年度当初の博物館法を掲載している。

施設概要

展示室——

シルクロード室	171.58㎡
常設展示室	444.77㎡
多目的室	80.20㎡

学習スペース——

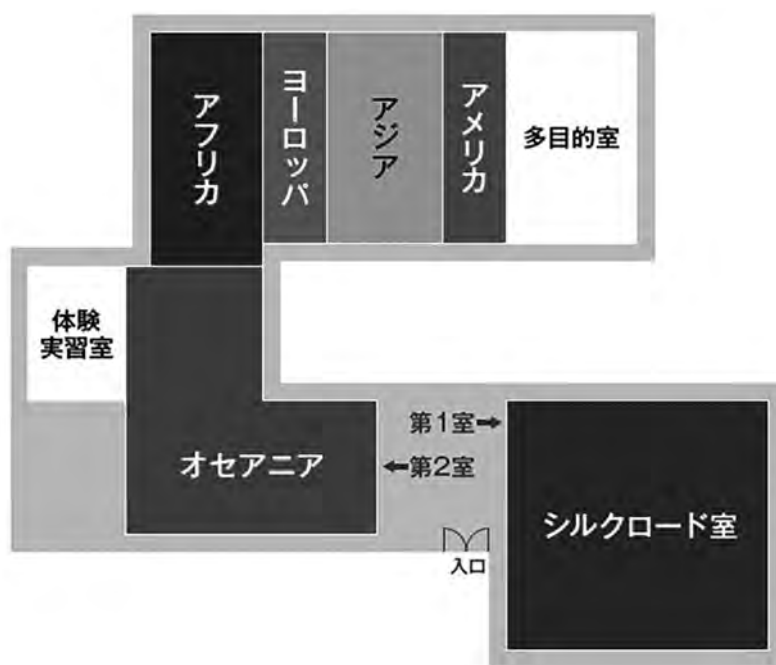
実習室	展示室中約40㎡
自習室（作業室）	39.98㎡

収蔵庫——

解梱・撮影用前室（収蔵庫1）	53.25㎡
収蔵庫（収蔵庫、収蔵庫3、搬入用経路含）	126.49㎡

事務室——

事務室	45.72㎡
-----	--------



展示室平面図

*2020年度に実施した常設展示室内再編後。
(ヨーロッパ地域の展示ゾーン位置を変更)

3

論文・研究調査



再編後の常設展示室での見学風景
(中央・新設の館内案内パネル)

作品の過去＝＜来歴 (プロヴィナンス)＞は、未来を問う ——現代における展覧会／アーカイヴのいま

前田 富士男

『アーカイヴの病——フロイトの印象』(1995)は、哲学者J・デリダのアーカイヴ論である。頁を開いたわれわれ読者は、アーカイヴをめぐるいささか屈折した立論に戸惑いを覚える^[1]。

今日のアーカイヴという組織・研究体制は、非常に複雑化し、多様な活動を展開しているが、デリダによれば、アーカイヴとはそもそも、「真理という偶像」を掲げつつも、じつは根本において「記憶の蓄積と資本化」を破壊し無化する「死の欲動」を内在させている組織にほかならない。そうした矛盾を宿痾とすればこそ、「アーカイヴの病」は抜きさしならない病状なのだ。デリダはしかもこの問題を精神分析学者S・フロイト(1856-1939)自身のアーカイヴに即して論じるから、論述がいつそう錯綜する感は否めない。

フロイトは、やがていつか創立されるはずの自分自身の「フロイト・アーカイヴ」(実際には、アメリカ議会図書館内、1951年開設)が彼の姿を描き出す事態を想定し、あらかじめ定期的に自分の文書を整理・処分し、アーカイヴのために独自の史料群を修補・形成する努力を怠らなかった。そこでデリダは、まずアーカイヴという組織の語源に「アルケー(始まり)」をおき、ギリシアの法務行政官の建物(アルコン)を、つまり「始まり」と「法」とを探りあてる。すなわち自然と歴史にしたがう「存在論的原理」と、権威と社会秩序が行使される「法規範的原理」である^[2]。

今日のアーカイヴ学は、アーカイヴの語源にギリシア時代の法務事務所(アルコン/アルケイオン)を認めても、ギリシア語アルケーについてはそのままに同意しない。アルケーはあくまで事務所建物に収蔵される「記録文書類」を指すからである。哲学者デリダによる「始まり」の、つまり無への欲動に接続するような語義解釈には、慎重な姿勢をとるべきだろう。

しかしヨーロッパ18・19世紀に確立されてゆくアーカイヴ組織そしてアーカイヴ学を振り返ると、われわれはデリダのいささか過剰にもみえる解釈を、たとえフロイト論には距離をおくとしても、よくよく吟味せざるをえない。

1. J・デリダにおける「史料」概念

デリダの語る史料概念は、伝統的な近世のアーカイヴ概念の基礎をなす「文書登録室」と、そして近代アーカイヴ学を基礎づけたドイツの歴史学者J・G・ドロイゼン(1808-1884)による「伝統継承史料(Tradition)」の二つを的確に

前提としている。このことは強調したい。

そこで、我が国ではアーカイヴ学が議論される機会に恵まれないので、基本概念を再確認しておこう。

「史料(Quelle, source)」の語は、ひろく原典・出典の意味でも用いられるが、歴史学の水準では歴史的史料(historische Quelle, historical source)を意味し、過去について知識を伝えるあらゆる文書(Text)、遺物、制作品、対象、出来事、事実を指す概念で、歴史以外の知識や経験にもなる「資料(Material)」とは区別される。それゆえ、ゴッホの作品《ひまわり》は、芸術鑑賞の対象のときは資料で、静物画の歴史を考察するときは史料になる。ということ、奇妙な用語法にみえるかもしれないが、アーカイヴ学は、この差異の確認・選別から始まる。

アーカイヴは、ヨーロッパ近世以降の君主制や共和制の政治体制下において「公文書」の管理・運用を担う重要な部署となった。我が国ではおよそ参照されないが、18世紀でフランスの『百科全書』を凌駕する浩瀚なドイツの『学芸大百科事典』(全68巻、1731-1754)の「アーカイヴ」項目に眼を通せばよい。ドイツ各国・各領邦の行政・司法職は、彼らが処理すべき文書類に関して、二つの手続きを厳守してきた。すなわち、第一に各文書の信憑性を法廷の審理に則して審査し評定する「文書登録室(Registratur)」が業務を行う。そこで選定された文書が「公文書」として、第二の「公文書保管室(Archiv)」に収蔵され、ここでは閲覧利用のために最適なカタログ化が検討され、保管室内の配架が措置される。この二重構造こそが、アーカイヴ機構の本質をなしている^[3]。ところが、第二の「保管室(Archiv)」機能のみを「アーカイヴ」と誤解する傾向が我が国ではつよい。この国の公文書とは、国内の公的機関が作成した文書で、それはすべて自動的に「公文書」と認定されるようだ。機関内の客観的な審査や選別は、必要とされないのである。

デリダは、この「文書登録」をアーカイヴの本来の機能とみなしている。なぜならここでは端的に「法規範的原理」が作動しているからである。他方、デリダは「存在論的原理」を問う。これはアーカイヴ学からみれば、デリダは用いないけれども、史料の「来歴(Provenienz, provenance)」と読み替えてよい。というのも、実在する史料の履歴は、それを制作し受容した人間たちの存在論のテキストにほかならないからだ。この観点に立って、歴史家として法規範論と存在論とを区分し、とりわけ文化的芸術的領域における史料の位置

づけに注意したのは、ドロイゼンである。ベルリン大学で同僚ヘーゲルの理想的歴史観を批判したこの歴史家は、法的公布文書のように規範的継承を意図して作成する「伝統継承史料 (Tradition)」を指定しつつ、他方で建築、工芸品、衣服など日常の使用品として制作される「現用遺物史料 (Überreste)」、そして両者の中間相をなす「記憶提示史料 (Denkmal、文化財)」の三つの分類 (1858年) の区分を提示した。芸術作品とは現用品として制作されながら、伝統に組み込まれてゆく意味で、中間的な記憶提示史料なのである。じつはこの「中間性」こそ、芸術史料の存在論的解釈にかかわる重要な位相である。

ドロイゼンを継承した、いわゆる「オランダ・マニュアル」(1898年)として知られるアーカイヴ学入門書は「来歴原則 (Provenienzprinzip)」および「フォンド (fonds)」概念を一般化した。来歴原則とは、史料の成立や運用・受容において特定の史料群を他の史料群から類別する手法を意味し、通時系列 (Chronologie) にもとづく題材の分類を基本としつつ、他の共時系列、つまり機能・目的・受容・様式などの内容的関連性・類似性の視点から史料群を類別する手続きである。したがってある特定の史料群は、さらにいくつかの副次史料群 (フォンド) の編成 (コンテクスト化) からなると理解できる^[4]。われわれからみれば、史料、とくに芸術史料のもつ中間性は、どのようなフォンドをいかに編成すべきかというアーカイヴ学の最重要課題を問いかけてやまない。

2. 「ロサンゼルス市警察アーカイヴ」展

デリダの論じる「法規範的原理」と「存在論的原理」、そして史料論における「記憶提示史料」の中間性、あるいは通時系列的な来歴と解釈学的なフォンド編成の問題は、アーカイヴの組織・体制の本質的な特性と課題を明示していよう。こうした状況はあらゆるアーカイヴに共通し、アーカイヴ作業現場ではその課題の重みが認知されているものの、一般に理解されることは少ない。

われわれの知る唯一といってもよい例外的な事態は、2005年の「アーカイヴ・アート——ロサンゼルス市警察アーカイヴの写真」展ではないだろうか。展覧会史上、世界で最初の警察刑事史料の展示である^[5]。

筆者の実見したこの展覧会は、チューリヒ・クンストハウス美術館で2005年7月15日～9月18日に開催され、ロサンゼルス市警察 (LAPD) の「捜査・業務アーカイヴ」から88点の写真史料が出陳された。日本では各都道府県警察における刑事部捜査資料や警備部ほかの業務資料は概ね総務部によって管理され、一定の規則のもとで保管・廃棄・消去されているようだが、そもそも写真資料の作成と保管・運用がいつから正規業務として実施されたのかは、また現在の運営はまったく不公開・不詳である。

もとより写真資料は、とくに刑事部では検察上の起訴・公判と関連する最重要の資料と認識され、パリ市はすでに1841

年から、またニューヨーク市は1858年、ロンドン市は1870年から、警察による写真撮影業務を法的判断に適合させるための「標準化」を実施した。すなわち撮影における構図、照明、技術ほかの規範化で、撮影者の個人的技法や主観的表現様式は排除された。都市警察は、標準化に対応できる技術を持つ専従の写真家を雇用もしくは委嘱することになる。ここには市民社会における写真技術の伝統の有無も作動していよう。当時の日本社会では写真技術は未知だった。

言い換えれば、この標準化とは、前述したアーカイヴ組織の手続きに則した「文書登録室」業務の適用以外の何ものでもない。警察機構のなかで作成された写真資料は、裁判・審理において認知されない形式であれば、登録室の専門家はそれを排除し、適合する写真「資料」のみを「史料」として認定し、アーカイヴに保管を指示する。アーカイヴ文化を保持する国々では、当然の措置である。それゆえ、警察の保持する写真「史料」は史料である以上、当然、廃棄・消去されることはない。LAPDは19世紀末からこうした体制を整備した。とりわけ1920年代から「LAPD写真アーカイヴ」を主管したC・ドライバーの貢献もあって、今日では100万点を超える撮影写真ネガ史料が保管・整理・運用されている。

その中から2点のみを引用しよう。写真史料のデータ記録項目は基本的に写真番号／撮影年月日／データ史料番号／撮影者名／画像題材名／画像出典説明 (legend) からなる。

図1は、データ記録項目を略記すれば、「1942年10月10日撮影、データ史料番号「A-803-852」(写真画面に手筆銘記)、画像題材名「自動車窓ガラス弾痕拡大。弁護士。殺人。」、画像出典説明「殺人事件の、一組の弾痕の鮮明な撮影が車内の空席上の出来事を明示。(事件情報は使用不可)」。以上の記載項目は簡潔ながら、この写真資料が登録室の審議を経て史料登録され、アーカイヴに保管・運用される推移を示すが、登録室とアーカイヴの担当者からみて、公判などの証拠史料としての運用には注意が必要、との付記も記載された。



図1 LAPD A803-852 1942.10.10.

我が国のアーカイヴ学では、1990年代前半に世界的に一般化した「アーカイヴ史料記述・国際標準 (ISAD/G)」やダブリン・コアが注目を集めてきた。これらはたしかに、現代の情報技術社会における標準化の指標として大きな役割を持つ。けれども、たとえば19世紀後半からの、ドロイゼンの史料論を踏まえたヨーロッパ・アメリカ各地の実質的なアーカイヴ運営を確かめると、史料解釈をめぐる問題構制は変化していないと言わざるをえない。ドロイゼンが重視したのは、資料の作成者の「意図 (Absicht)」、「意思 (Wille)」である。意図・意思の有無によって、史料は区分される。だが、非合理的伝統的行為と合理的目的的行為の関連 (M・ヴェーバー) は、近代においては多重性を帯びてくる。

刑事警察の史料に考察を限定しよう。もとより史料にもとづく推論はすべて事件の犯人像もしくは実在する犯人という行為者の特定を目指すはずである。ある人間の意図・意思の解明に資する史料の実在が問われる。だが、19世紀末からの世紀転換期以後、写真による史料複写あるいは史料作成がアーカイヴ組織で重要な役割を果たすようになると、史料解釈におけるコンテキストの並列性や来歴解釈の多様化が生じたことは間違いない。

LAPDの1955年撮影史料をみよう (図2)。データ史料番号「547-627」。画像題材名「ロサンゼルス川の橋、河底に遺体、捜査員と車両」、画像出典説明「捜査員と検視官が遺体を検査中。ブロードウェイ橋上から2名が視察。この川のほとんどは河底が舗装。水流のあるときは危険な河川となる。(事件情報は使用不可)」。画面上には手筆銘記で、史料番号、撮影年月日、撮影者名・頭文字が記されている。



図2 LAPD 547-627 1955.11.02.

この画像出典説明より、犯人が橋上から、河底の舗装を知ったうえで殺意をもって被害者を突き落とした事態が推定される。けれども、われわれはそれとは別様に、この橋の円形アーチと遠景のかすんだ近代的なトラス型鉄橋との対比、あるいは橋上の人物2名の姿から、史料解釈のコンテキストを多様化する。ローマ建築的な半円アーチの真下に位置する遺体と橋上の観察者とを対比して、ニーチェの超人をめぐる「橋」の言説を想起する者は少なくないだろう。むろん、そうした解釈可能性を想定して、なるほどこの史料の画像出典説明は、法廷審理を想定して「使用不可」を記入している。だが、この記入自体、きわめて現代のアーカイヴ組織、アーカイヴ学にとって、示唆深い。なぜなら、写真というシニフィアン (記号体) は、シニフィエ (記号内容) を超えてゆくからだ。これは図1・2に明らかだ。画像出典説明 (legend) とは「来歴」である。たとえ標準化を遵守しても、史料の二重構造性がここに出現せざるをえない。

人口に膾炙する「オランダ・マニュアル」は、じつは史料の複写性、写真史料の出現による複数の来歴の並行性、コンテキストの複数解釈をむしろ前提とし、そうした二重構造性に対処するための「マニュアル」にほかならない——そう解釈すべきではないか^[6]。とすれば、過去の来歴の記述は、そのまま解釈の未来の多動性を問う行為と同列の位置価値を保持することになる。ISADに先駆けること70年以前のLAPD・写真アーカイヴの展示は、そう問いかけてやまない。

3. ドイツ・イエーナ市D.O.M.と「来歴研究」

現代ドイツに眼を転じよう。ザクセン州イエーナのドイツ光学博物館 (Deutsches Optisches Museum, D.O.M.) は、1922年にカール・ツァイス財団によって設立され、光学技術者カール・ツァイス (C.F.Zeiss, 1816-1888) の開発した顕微鏡やレンズ機器を中心に、18世紀からの科学技術史研究を領域とする博物館である^[7]。

D.O.M.は、2016年より旧財団／カール・ツァイス社／イエーナ市／イエーナ大学の共同運営になるD.O.M.財団に体制・組織を移行し、目下、新博物館の開設・新築、そして体制の整備が進行中である。2025年に開館予定だから、ベルリン美術館島に続く大規模なプロジェクトとみなしてよい。

イエーナ市は、1548年創立のイエーナ大学を中核とするドイツで最も重要な「大学街」のひとつである。イエーナ大学は、近隣のヴァイマル市に住むゲーテ (J.W.v.Goethe, 1749-1832) の参画をえて、哲学者フィヒテ、ヘーゲル、シェリングが教授に着任し、また植物学研究の拠点としてドイツ有数の「植物園」を整え、さらに動植物学に関する生命科学のみならず、天文学や物理学などの自然科学領域でも大きな成果をあげた。17世紀から20世紀半ばまで、生命科学や物理学・天文学で、顕微鏡や望遠鏡など、レンズを欠いた研究は不可能であった以上、D.O.M.の重要性は、強調するまでもない。

我が国では、20世紀前半のドイツに関して、「ヴァイマル

文化」という常套句の呼称が定着してきた。18/19世紀からのゲーテの存在を暗黙の前提とするかのようなこの呼称には、異議を申し立ててよい。いうまでもなく、ヴァイマルに大学は存在しなかった。だから、ヴァイマルのカール・アウグスト公やゲーテは、イエーナ大学をきわめて重要な学術的拠点として支援と協力を惜しまなかった。イエーナ大学、ライプツィヒ大学、ハレ大学、またドレスデンの美術大学・医科大学が19世紀から展開してきた先端的学術活動と文化的感性の開発の圏域こそ、注目に値するホリゾン＝地平にほかならない。この圏域はヴァイマル文化ではなく、「ザクセン文化」と呼ぶにこしたことはない。

ヴァイマル・バウハウスの教員だった画家P・クレーは1924年1月にイエーナ芸術協会で講演「現代芸術について」を行った。これは、彼の講演・著作を代表する優れた内容で、綿密な講演原稿の準備ひとつをみても、都市イエーナへの敬意が如実に読みとれよう。バウハウスのW・グローピウス、W・カンディンスキーもこの芸術協会で講演を行った事実は強調しておきたい^[8]。

いささか長くイエーナ市の学術的伝統を述べたのは、第二次世界大戦末期にアメリカ空軍の空爆によって市内が徹底的に破壊され、また大戦後、ソ連の政治体制下でのドイツ民主共和国(DDR、旧東ドイツ)の時代(1949-1990)に、多くの自然科学系の学者がソ連に移住を強制されるなど、学術都市の余儀なき沈滞が国際的に知られていないからである。D.O.M.の運営も困難を極めたにちがいない。

だが、こうした過酷な状況下にもかかわらず、D.O.M.は、まさにロサンゼルス市のLAPD・アーカイヴと同じく1920年代以後、ごく小規模に、しかし着実にアーカイヴ活動を維持し、ドイツ再統合を迎えた。ようやく21世紀を迎えてD.O.M.は、イエーナ大学の整備と連動して博物館活動を正常化する途に就いたといえよう。そのなかでごく最近に、1920年代から今日まで秘かに維持されたD.O.M.の矚目すべきアーカイヴ活動が明らかになった。

D.O.M.館員で研究者S・ツァナボーニによる2019年の「来歴研究会」研究報告によって、同館のアーカイヴが1930年代からヒトラーとNSDAP(ナチ党)政権が行った「芸術収奪(Raubkunst)」史料を集成してきた事実が明らかにされた。ツァナボーニによれば、ヒトラー政権化の「芸術収奪(Raubkunst)」の史料のみならず、旧東ドイツ時代における芸術の抑圧や作品の収奪に関する史料集成も行われてきたとのことである^[9]。この報告は筆者に衝撃をもたらした。

D.O.M.が科学技術史領域のアーカイヴのなかで芸術の収奪や抑圧をアーカイヴ作業のなかで追究しえたのは、史料の持つシニフィアンとシニフィエとの二重構構性を標準化によって克服するのではなく、それを能動的な中間性として解釈する姿勢があったからだろう。「来歴」の解釈は、アーカイヴを統制しようとする権力主義を打破しうるのだ。D.O.M.のアーカイヴ展はまだ開催されていない。ロサンゼルス

LAPDの展覧会は一度だけ実施されたにとどまる。アーカイヴでの「来歴」そのものを主題とする展覧会は稀少だとはいえ、イベントに堕しかねない展覧会を芸術の「未来」にむけて再編する大切な契機になるにちがいない。そう主張したい。

註

- [1] 『アーカイヴの病——フロイトの印象』福本修訳、法政大学出版局、2010年(J.Derrida, *Mal d'archive, une impression freudienne*, Paris, 1995.)。
- [2] デリダ、註[1]、18頁、1頁以下。
- [3] *Grosse vollständige Universal-Lexicon von aller Wissenschaften und Künste*, J.H.Zedler(Hg.), 64 Bde. und 4 Supplementbde, Halle/Leipzig 1731-1754, Sp.4771ff.
- [4] アーカイヴ学については、基本研究文献の紹介・記載をふくめ、次を参照。前田富士男「史料をめぐる『歴史＝物語(Geschichte)』のありか——19世紀ドイツのアート・アーカイヴ」、『美術フォーラム21』35号、2017年、醍醐書房、24-32頁。前田富士男「アーカイヴのディルタイとドローゼン——『歴史校訂学(Historik)』と芸術史」、『ディルタイ研究』28号、日本ディルタイ協会、2017年、32-51頁。史料研究の基本概念については、ドイツの歴史事典を参照のこと。E.Bayer u. F.Wende, *Wörterbuch zur Geschichte, Begriffe und Fachausdrücke*, 5.Aufl., Stuttgart 1995.
- [5] *The art of the archive, Fotografien aus dem Archiv des Los Angeles Police Department*, Kunsthaus Zürich, Ausst.Kat., T.Bezzola u. L.Schädler(Hg.), Zürich u. LA 2005。本論における以下のLAPDの史料紹介ほかは、同書にもとづく。
- [6] オランダ・マニュアルは以下。S.Muller, J.A.Feith en R.Fruin, *Handleiding voor het ordenen en beschrijven van archieven*, ontworpen in opdracht van de Vereniging van Archivarissen in Nederland, Groningen: Erven B. van der Kamp 1898。ドイツ語訳は以下。S.Muller, J.A.Feith en R.Fruin, *Anleitung zum Ordnen und Beschreiben von Archiven*, bearb.v. Hans Kaiser, Leipzig/Groningen 1905.
- [7] イエーナ市の文化史については下記を参照。V.Wahl, *Jena als Kunststadt. Begegnungen mit der modernen Kunst in der thüringischen Universitätsstadt zwischen 1900 und 1933*, Leipzig 1988, H.Koch, *Geschichte der Stadt Jena*. Unveränd. Nachdr. der Ausg. von 1966., Jena 1996. U.Hess u. V.Wahl, *Geschichte Thüringens, 1866 bis 1914*, Weimar 1991.
- [8] クレーの講演ならびにイエーナ文化に関する詳細な研究は、*Paul Klee in Jena 1924, die Ausstellung*, A.M.Ehrmann-Schindlbeck, M.Schmid u. F.-J.Verspohl(Hg.), Jena 1999.
- [9] S.Zanaboni u. A.Michalski, „Insight D.O.M.“ zum Tag der Provenienzforschung: Die Provenienzforschung am Deutschen Optischen Museum, in: <https://deutsches-optisches-museum.de/>

図版出典

- 1./2. *The art of the archive*, 註[5], S.29./S.51.

まえた・ふじお(中部大学客員教授)

中部大学民族資料博物館 年報 2020/2021 10号 ©

2022 (令和4) 年3月31日編集

2022 (令和4) 年5月31日発行

編集・発行 中部大学民族資料博物館 館長 荒屋鋪 透

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

TEL 0568-51-9193 (直通) FAX 0568-51-9194

<https://www3.chubu.ac.jp/museum/>

ISSN 2434-2491

印刷 不二印刷工業株式会社
